

大学改革支援・学位授与機構が実施した国立大学法人等の第3期中期目標期間（4年目終了時）における教育研究の状況の評価について

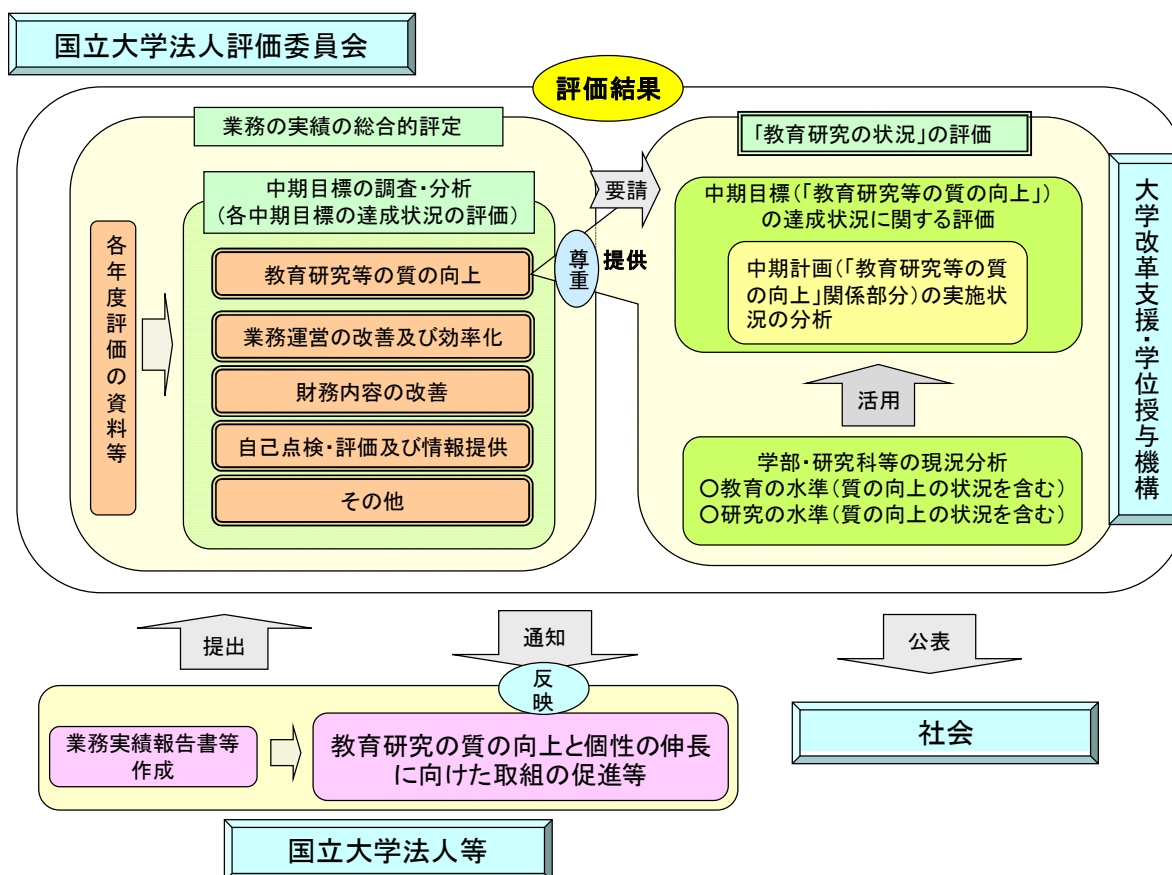
独立行政法人大学改革支援・学位授与機構

1 評価の目的

国立大学法人及び大学共同利用機関法人（以下「国立大学法人等」という。）は、第3期中期目標期間（平成28年度～令和3年度）終了時に見込まれる業務実績について、その評価結果を次期（第4期）の中期目標・中期計画に反映するため、4年目終了時に文部科学省の国立大学法人評価委員会（以下「法人評価委員会」という。）の評価を受けることとなっています。（国立大学法人法第31条の2第1項）

大学改革支援・学位授与機構（以下「機構」という。）では、法人評価委員会から要請を受けて、国立大学法人等の第3期中期目標期間の業務実績のうち、教育研究の状況について評価を実施しました。（国立大学法人法第31条の3第1項）

第3期中期目標期間評価の全体像



2 評価方法

各国立大学法人等の自己点検・評価に基づき、各国立大学法人等の教育研究の特性に配慮しつつ、評価を行いました。

(1) 国立大学法人等における自己点検・評価

各国立大学法人等においては、機構が作成した実績報告書作成要領に従って自己点検・評価を実施し、教育研究評価に係る実績報告書（達成状況報告書及び現況調査表）を作成しました。

(2) 教育研究の状況の評価

教育研究の状況の評価として、「中期目標に関する達成状況評価」及び「学部・研究科等の現況分析」を行いました。なお、評価に当たっては、各国立大学法人等からの提供を基にしたデータ分析集や認証評価の評価結果等を活用しました。

① 中期目標に関する達成状況評価

この評価は、国立大学法人等ごとにその全体を対象とし、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、または「研究機構の教育研究等の質の向上に関する目標」に掲げられている教育研究に関連する中期目標及び中期計画について、各国立大学法人等から提出された達成状況報告書等に基づき、書面調査及びヒアリングにより、その達成状況の評価を行いました。

その際には、各国立大学法人等が記載した個性の伸長に向けた主体的な取組の内容を踏まえて評価を行いました。

また、法人評価委員会から認められた「戦略性が高く意欲的な目標・計画」については、当該中期計画が計画通り実施できていない場合においても、教育研究の質の向上や高い教育研究水準の実現が確認できる場合には、プロセスや内容等を考慮して評価を行いました。さらに、明らかに新型コロナウイルス感染症の影響で計画通りに実施できていない場合においても同様に考慮して評価を行いました。

そして、最終的な判定を行うに当たっては、第3期の評価においては、法人評価委員会からの要請を踏まえ、後述の学部・研究科等の現況分析の判定結果を加算・減算しており、現況分析結果を十分に活用しました。

※ この評価は各法人における目標・計画に即して行うものであり、各法人を相対的に評価するものではありません。

中期目標（大項目）、（中項目）の判定は、以下の区分により示しています。

「中期目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある」

「中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある」

「中期目標の達成に向けて順調に進んでいる」

「中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる」

「中期目標の達成のためには遅れている」

「中期目標の達成のためには重大な改善事項がある」

中期目標（小項目）の判定は、以下の区分により示しています。

「中期目標の達成に向けて進捗し、特筆すべき実績を上げている」

「中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている」

「中期目標の達成に向けて進捗している」

「中期目標の達成に向けて十分に進捗しているとはいえない」

「中期目標の達成に向けて進捗していない」

中期計画の判定は、以下の区分により示しています。

「中期計画を実施し、優れた実績を上げている」

「中期計画を実施している」

「中期計画を十分に実施しているとはいえない」

② 学部・研究科等の現況分析

現況分析は、学部・研究科等を対象とし、各国立大学法人等から提出された現況調査表等に基づき、書面調査により「教育の水準」及び「研究の水準」の評価を行いました。

各国立大学法人等が現況調査表を作成するに当たっては、4つの分析項目「教育活動の状況」、「教育成果の状況」、「研究活動の状況」及び「研究成果の状況」の下に11の学系別に「記載項目」を設定し、各記載項目の記載内容について一定の標準化を図りました。

また、判定に当たっては、各学部・研究科等の目的に照らして、取組や活動、成果の状況がどの程度の質にあるかを判断しました。その際、第2期中期目標期間終了時点と評価時点での質の向上の状況も含めて判断しました。したがって、各学部・研究科等を相対的に評価するものではありません。

分析項目ごとの段階判定は、以下の区分により示しています。

「特筆すべき高い質にある」

「高い質にある」

「相応の質にある」

「質の向上が求められる」

③ 研究業績水準判定

研究業績水準判定は、学部・研究科等の代表的な研究業績を対象とし、各国立大学法人等から提出された研究業績説明書に基づき、書面調査により評価を行いました。

判定に当たっては、研究業績説明書における研究業績の要旨、第三者による評価結果や客観的な指標等を踏まえ、「学術的意義」と「社会、経済、文化的意義」の側面から、以下の判断基準に基づき、SS、S、S 未満の区分で行い、その結果を現況分析部会及び達成状況判定会議に提出しました。

○学術的意義での判断基準

SS：「当該分野において、卓越した水準にある」

S：「当該分野において、優秀な水準にある」

○社会、経済、文化的意義での判断基準

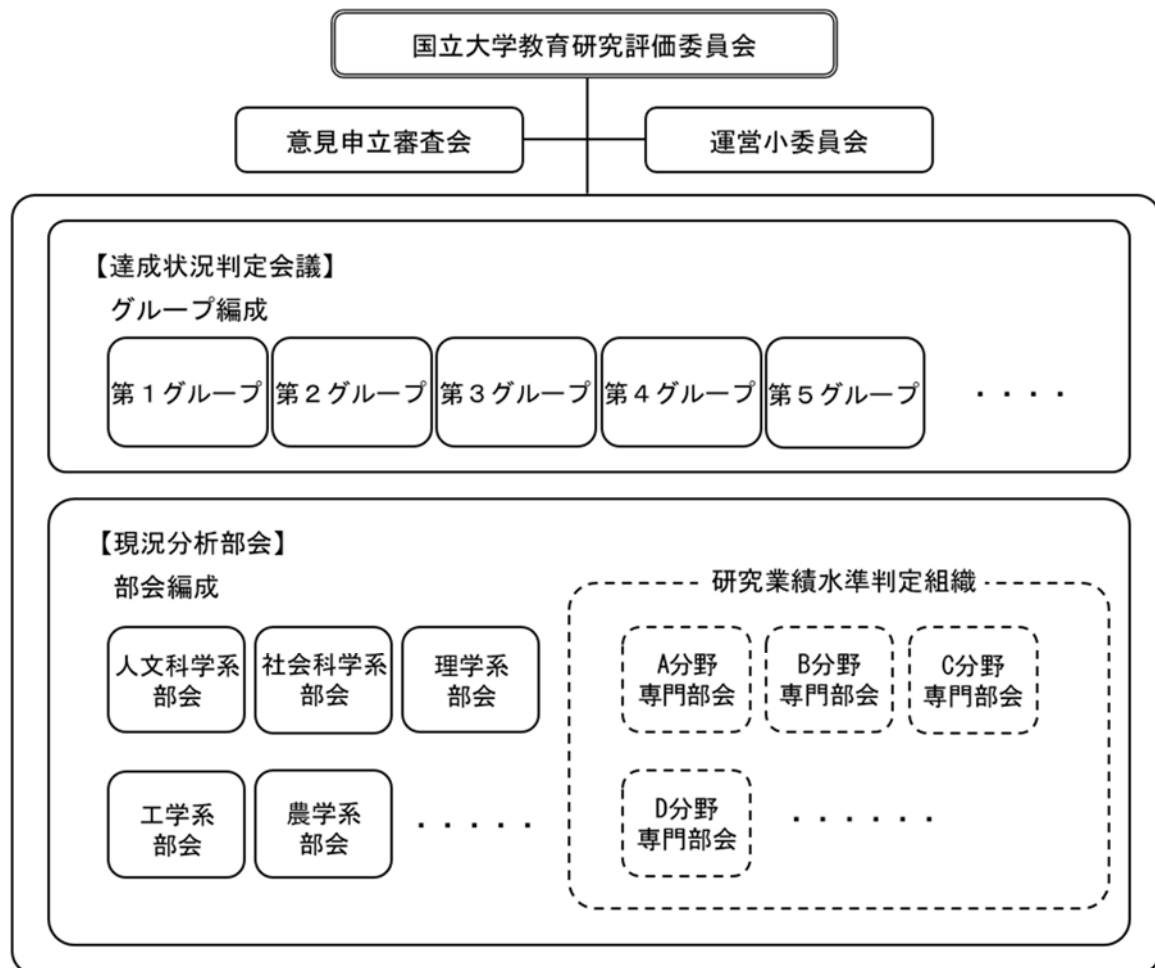
SS：「社会、経済、文化への貢献が卓越している」

S：「社会、経済、文化への貢献が優秀である」

3 評価体制

機構の国立大学教育研究評価委員会の下に、達成状況判定会議、現況分析部会及び研究業績水準判定組織を編成し、評価を行いました。

達成状況判定会議は、各法人の規模・構成に応じて8グループを編成しました。現況分析部会は、学問分野別に11の学系部会を設置しました。また、研究業績水準判定組織は、科学研究費助成事業の分類（中区分）を基とした65の専門部会を設置し、各専門部会には小区分を定めて複数名の評価者を配置しました。



4 評価報告書について

「評価報告書」は、「中期目標の達成状況に関する評価結果」、「教育に関する現況分析結果」及び「研究に関する現況分析結果」から構成されています。

○ 中期目標の達成状況に関する評価結果

中期目標の達成状況に関する評価結果は、それぞれの中期目標（大項目、中項目）ごとに段階判定の評価結果を示すとともに、その結果を導いた理由を記述しました。

中期目標（小項目）については、それぞれの判定及び判断理由を記述するとともに、判定の要素となる特記事項（優れた点、特色ある点及び改善を要する点）を記述しました。

判定結果一覧表では、中期目標（大項目、中項目、小項目）、中期計画ごとの判定とともに、それぞれ下位にある中期目標・中期計画の判定の平均値（現況分析による加算・減算を含む）を示しています。

○ 教育に関する現況分析結果及び研究に関する現況分析結果

教育に関する現況分析結果及び研究に関する現況分析結果は、教育の水準、研究の水準の分析項目ごとの判定結果と、その判定結果を導いた理由について記述しました。

また、学部・研究科等の目的や特徴、特色等に即して、特記事項（優れた点、特色ある点及び改善を要する点）を記述しました。

5 審議経過

<令和2年>

- ・ 7月 研究業績水準判定の書面調査
- ・ 8月～10月 達成状況評価、現況分析の書面調査
- ・ 10月15日 現況分析部会（第1回）
～10月29日 現況分析結果（素案）の審議
- ・ 11月10日 国立大学法人等に対し、分析に当たっての確認事項の照会（現況分析）
～11月24日
- ・ 10月14日 達成状況判定会議（第1回）
～11月10日 評価結果（素案）の審議
- ・ 11月25日 国立大学法人等に対し、ヒアリングに向けての確認事項の照会
～12月8日 （達成状況評価）

<令和3年>

- ・ 1月14日 現況分析部会（第2回）
～1月27日 現況分析結果（原案）の審議
- ・ 3月19日 運営小委員会（現況分析）
- ・ 1月25日 国立大学法人等に対し、ヒアリングを実施
～2月10日
- ・ 3月18日 達成状況判定会議（第2回）
～3月26日 評価結果（原案）の審議
- ・ 3月31日 運営小委員会（達成状況評価）
- ・ 4月7日 国立大学教育研究評価委員会
評価報告書（案）の審議
- ・ 4月9日 評価報告書（案）に対する国立大学法人等からの意見申立ての受付
～4月26日
- ・ 5月25日 意見申立審査会
意見申立ての対応の審議
- ・ 6月3日 国立大学教育研究評価委員会
評価報告書の審議・決定
（その後、法人評価委員会に評価報告書を提出）

6 評価結果概要

国立大学法人等の第3期中期目標期間に係る教育研究の状況の評価結果概要

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施した国立大学法人等の第3期中期目標期間(4年目終了時)に係る教育研究の状況の評価結果(中期目標の達成状況評価及び学部・研究科等の現況分析)は、以下のとおりである。

1. 中期目標・中期計画の達成状況

(1) 国立大学法人(86法人)の評価結果

大項目	特筆すべき進捗	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れている	中項目	特筆すべき進捗	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れている
教 育	2 (2.4%)	17 (20.0%)	56 (65.9%)	10 (11.8%)	0 (0.0%)	①教育内容及び教育の成果等	1 (1.1%)	22 (25.3%)	51 (58.6%)	13 (14.9%)	0 (0.0%)
						②教育の実施体制等	0 (0.0%)	14 (16.5%)	67 (78.8%)	4 (4.7%)	0 (0.0%)
						③学生への支援	0 (0.0%)	19 (22.4%)	63 (74.1%)	3 (3.5%)	0 (0.0%)
						④入学者選抜	0 (0.0%)	6 (7.1%)	78 (91.8%)	1 (1.2%)	0 (0.0%)
						⑤その他	0	0	1	0	0
研 究	15 (17.6%)	31 (36.5%)	33 (38.8%)	6 (7.1%)	0 (0.0%)	①研究水準及び研究の成果等	3 (3.5%)	49 (57.6%)	30 (35.3%)	3 (3.5%)	0 (0.0%)
						②研究実施体制等	0 (0.0%)	22 (26.2%)	59 (70.2%)	3 (3.6%)	0 (0.0%)
						③その他	0	1	0	0	0
社会連携等・地域志向	0 (0.0%)	30 (35.7%)	47 (56.0%)	7 (8.3%)	0 (0.0%)	—	—	—	—	—	—
その他 (グローバル化含む)	2 (2.3%)	20 (23.0%)	63 (72.4%)	2 (2.3%)	0 (0.0%)	①グローバル化	1 (1.1%)	18 (20.7%)	67 (77.0%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)
						②その他	1	3	12	1	0
教育研究等の質の向上	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	中項目[1]～[7]※2	0 (0.0%)	1 (14.3%)	6 (85.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

※1 大項目「社会連携等・地域志向」については、中項目に相当する中期目標はなし。

※2 大項目「教育研究等の質の向上」については、中項目[1]～[7]をまとめて記載している(該当1法人)。

※3 大項目・中項目は、国立大学法人により構成が異なるため、それぞれの合計は必ずしも一致しない。

(2) 大学共同利用機関法人(4法人)の評価結果

大項目	特筆すべき進捗	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れている	中項目	特筆すべき進捗	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れている
研 究	3 (75.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	①研究水準及び研究の成果等	2 (50.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
						②研究実施体制等	0 (0.0%)	1 (25.0%)	3 (75.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
共同利用・共同研究	0 (0.0%)	4 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	①共同利用・共同研究の内容・水準	0 (0.0%)	4 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
						②共同利用・共同研究の実施体制等	0 (0.0%)	1 (25.0%)	3 (75.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
教 育	0 (0.0%)	1 (25.0%)	3 (75.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	①大学院等への教育協力	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
						②人材育成	0 (0.0%)	1 (25.0%)	3 (75.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
社会連携等	0 (0.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	—	—	—	—	—	—
その他	0 (0.0%)	1 (25.0%)	3 (75.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	①グローバル化	0 (0.0%)	1 (25.0%)	3 (75.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
						②大学共同利用機関法人間の連携	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

※ 大項目「社会連携等」については、中項目に相当する中期目標はなし。

2. 学部・研究科等の現況分析

(1) 教育の評価結果(865組織)

	教育活動の状況		教育成果の状況	
	項目判定		項目判定	
特筆すべき高い質にある	63	7.3%	33	3.8%
高い質にある	223	25.8%	93	10.8%
相応の質にある	574	66.4%	739	85.4%
質の向上が求められる	5	0.6%	0	0.0%

(2) 研究の評価結果(591組織)

	研究活動の状況		研究成果の状況	
	項目判定		項目判定	
特筆すべき高い質にある	66	11.2%	57	9.6%
高い質にある	208	35.2%	181	30.6%
相応の質にある	317	53.6%	353	59.7%
質の向上が求められる	0	0.0%	0	0.0%

【合計】 1456 組織

1 教育研究評価に係るアンケート様式

支学機構評企第12号
令和2年8月27日

評価担当者 各位

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事
長谷川 壽一
(公戸省略)

研究業績水準判定作業に関するアンケートの実施について（依頼）

当機構の評価事業に関し、日頃から御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、当機構では関係各位の御意見等を踏まえ、常に評価システムの改善を図ることとしております。このため、評価担当者として当機構の評価に携わっていただいた各位の御意見を賜り、これに基づく評価の検証を実施いたしたく、この度、別添のアンケート調査を実施させていただきたいと存じます。
つきましては、御多用中のことと存じますが、令和2年9月15日（水）までに標記アンケートに御回答賜りますようお願い申し上げます。

担当者連絡先
独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
評価事業部 評価企画課
〒187-8587 東京都小平市学園西町 1-29-1
【アンケートフォームに関すること】
企画第1係（八木、千葉）
TEL：042-307-1612、1613
e-mail：kikaku@niad.ac.jp
【アンケート項目の内容に関すること】
国立大学評価室 法人評価支援係（牧野、芥川、鬼原）
TEL：042-307-7907、7909、7911
e-mail：gyosekil@niad.ac.jp

研究業績水準判定作業に関するアンケート

当機構では評価実施後に評価方法の妥当性を検証し、今後の改善に役立てていくこととしております。以下のアンケートにご協力くださいますよう、お願い申し上げます。
なお、回答は個人名が特定されないよう処理いたします。また、本アンケートは評価結果を確定し公表する前に実施しておりますが、ご回答の内容が評価結果に影響を与えることはありません。

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

メールアドレス *

メールアドレス

お名前 *

回答を入力

1/5 ページ

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

研究業績水準判定作業に関するアンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

1. 大学から提出された研究業績説明書について

（1）「学術的意義」を判断する研究業績について、判断するための根拠が十分に記述されていた業績はどの位ありましたか。 *

- ☐ 非常に多かった（8割～）
☐ 多かった（6～8割未満）
☐ ある程度あった（4～6割未満）
☐ 少なかった（2～4割未満）
☐ 非常に少なかった（～2割未満）

（2）「社会・経済・文化的意義」を判断する研究業績について、判断するための根拠が十分に記述されていた業績はどの位ありましたか。 *

- ☐ 非常に多かった（8割～）
☐ 多かった（6～8割未満）
☐ ある程度あった（4～6割未満）
☐ 少なかった（2～4割未満）
☐ 非常に少なかった（～2割未満）

2/5 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

研究業績水準判定作業に関するアンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

2. 参考資料について

（1） 研究業績水準判定表に記載していたURLからアクセスいただいたシステム上に表示された各論文の被引用数等のデータを、判定の際に、どの程度参照になりましたか。 *

- ☐ 最も重要な根拠とした
☐ 重要な根拠の一つとした
☐ 随時参考にした
☐ 若干利用することがあった
☐ 参照したが、参考にはしなかった
☐ 研究業績説明書【被引用数データ付】は参照しなかった

（2） ご担当の小区分において判定をした際に、大学からある程度共通して示されていると望ましかった根拠データがもしありましたら、お教えください。（空欄でも結構です）

回答を入力

3/5 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

研究業績水準判定作業に関するアンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

3. 判定について

(1) ご担当の小区分の専門領域の範囲を超える(担当小区分の専門知識では判断しづらい)研究業績がありましたか。*

- ☐ なかった
- ☐ あった

(1) -2 「あった」場合、おおよその割合をお答えください。(0割～10割のうち〇〇割、の〇〇の部分を半角英数で入力ください)

回答を入力

(2) 学術的意義について、「SS」「S」「S未満」の間の判断は、しやすかったですか? 判定された業績の中で確信をもって判定を下すことができた割合を以下の5段階から選択ください。*

- ☐ 8割以上
- ☐ 6～8割
- ☐ 4～6割
- ☐ 2～4割
- ☐ 2割未満

(3) 社会・経済・文化的意義について、「SS」「S」「S未満」の間の判断は、しやすかったですか? 判定された業績の中で確信をもって判定を下すことができた割合を以下の5段階から選択ください。*

- ☐ 8割以上
- ☐ 6～8割
- ☐ 4～6割
- ☐ 2～4割
- ☐ 2割未満

(4) 今回の研究業績水準判定では、一つの「研究業績」に三編までの論文等を記載する方式をとり、「研究業績」を単位として判定をしていただきました。この方法で判定がしづらかったですか。*

- ☐ なかった
- ☐ あった

(4) -2 前の質問で「あった」と回答された場合、具体的にどのような点が判定しづらかったですか。

回答を入力

4/5 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

研究業績水準判定作業に関するアンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

4. 作業について

(1) 判定にかかった、大体の作業時間をお答えください。(おおむね〇〇時間、の〇〇の部分のみ半角英数字でお答えください) *

回答を入力

(2) 判定した業績数の分量に関して、当てはまるものを以下5段階から選択ください。*

- ☐ 適切だった
- ☐ おおむね適切だった
- ☐ どちらでもない
- ☐ やや多かった
- ☐ 多かった

(3) ファイルの受け渡しを、研究業績水準判定支援システムを用いて行いました。使い勝手はいかがでしたか。*

- ☐ 良かった
- ☐ おおむね良かった
- ☐ どちらでもない
- ☐ やや悪かった
- ☐ 悪かった

(4) マイクロソフト社のExcelのファイルを用いて研究業績水準判定表の作成を行いました。その使い勝手はいかがでしたか。以下の5段階から選択ください。*

- ☐ 良かった
- ☐ おおむね良かった
- ☐ どちらでもない
- ☐ やや悪かった
- ☐ 悪かった

(5) 新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、動画を視聴することによる研修でしたが、評価方法を理解できましたか。以下の5段階から選択ください。*

- ☐ できた
- ☐ おおむねできた
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりできなかった
- ☐ できなかった

判定作業へのご意見や、判定作業で難しかったこと、参考資料のあり方、そのほかコメントがございましたら、ご自由にお書きください(空欄でも結構です)

回答を入力

回答のコピーが指定したアドレスにメールで送信されます。

5/5 ページ

戻る

送信

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

reCAPTCHA
プライバシー・利用規約

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

評価担当者 各位

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事
長谷川 壽一
(公印省略)

学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケートの実施について（依頼）

当機構の評価事業に関し、日頃から御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、当機構では関係各位の御意見等を踏まえ、常に評価システムの改善を図ることとしております。このため、評価担当者として当機構の評価に携わっていただいた各位の御意見を賜り、これに基づく評価の検証を実施いたしたく、この度、別添のアンケート調査を実施させていただきたいと存じます。
つきましては、御多用中のことと存じますが、令和3年3月22日（月）までに標記アンケートに御回答賜りますようお願い申し上げます。

担当者連絡先
独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
評価事業部 評価企画課
〒187-8587 東京都小平市学園西町 1-29-1
【アンケートフォームに関すること】
企画第1係（八木、千葉）
TEL：042-307-1612、1613
e-mail：kikaku@niad.ac.jp
【アンケート項目の内容に関すること】
国立大学評価室 法人評価支援係（牧野、芥川、鬼原）
TEL：042-307-7907、7909、7911
e-mail：gyosekil@niad.ac.jp

学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート

当機構では評価実施後に評価方法の妥当性を検証し、今後の改善に役立てていくこととしております。以下のアンケートにご協力くださいますよう、お願い申し上げます。
なお、回答は個人名が特定されないよう処理いたします。また、本アンケートは評価結果を確定し公表する前に実施しておりますが、ご回答の内容が評価結果に影響を与えることはないことを付言いたします。

○今回実施した現況分析の概要

現況分析は、各法人の学部・研究科等から「現況調査表」を提出していただき、それを基に評価者（現況分析部会専門委員）に評価をしていただく方法としておりました。
現況調査表に記述する内容については、当機構にて「分析項目」を設定するとともに、一定の標準化を図るため、各分析項目の下に学系別の複数の「記載項目」を設定し、記載内容を明示しました。

○本アンケートの構成

以下の留問では、現況分析を行うにあたって、現況調査表の内容が評価のために十分に記述されていたか、現況調査表と根拠となる資料・データに基づいて適切に評価を実施できたか、などをお聞きます。

アンケートは下記4項目（全20問）で構成されています。所要時間の目安は15分程度です。

- I 法人から提出された現況調査表について
- II 評価方法について
- III 評価作業と事前研修について
- IV その他（自由記述）

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

*必須

メールアドレス *

メールアドレス

お名前 *

回答を入力

1/5 ページ

次へ

フォームをクリア

Google フォームで（スワート）を送信しないでください。



学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

*必須

I 法人から提出された現況調査表について

（1） 主担当・副担当をされた現況調査表（別添資料を含む）について、以下に該当するものはどの程度ありましたか。当てはまる割合を選択ください。

（1）-a 学部・研究科等の目的が明確に記されていた。 *

- ☐ 8割以上
- ☐ 6～8割
- ☐ 4～6割
- ☐ 2～4割
- ☐ 2割未満

（1）-b 基本的な記載事項、特記事項のエビデンス一が記されていた。 *

- ☐ 8割以上
- ☐ 6～8割
- ☐ 4～6割
- ☐ 2～4割
- ☐ 2割未満

（1）-c 教育・研究活動の優れている点が具体的に説明されていた。 *

- ☐ 8割以上
- ☐ 6～8割
- ☐ 4～6割
- ☐ 2～4割
- ☐ 2割未満

（1）-d 教育・研究の成果が具体的に説明されていた。 *

- ☐ 8割以上
- ☐ 6～8割
- ☐ 4～6割
- ☐ 2～4割
- ☐ 2割未満

（2）法人から提出された現況調査表のページ数（分量）は、評価を実施する上で適切でしたか。 *

- ☐ 多い
- ☐ やや多い
- ☐ 適切
- ☐ やや少ない
- ☐ 少ない

（3） 現況調査表の形式や記載されていた内容について良かった点、悪かった点があれば、以下にご記入ください。

回答を入力

2/5 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームで（スワート）を送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー](#)

Google フォーム



学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

II 評価方法について

【教育面を担当された評価者のみ回答】

(1) -a 主担当・副担当をされた学部・研究科等について、書面調査段階における評価を確信をもって行うことができましたか。それぞれ以下の5段階から選択ください。

	8割以上	6～8割	4～6割	2～4割	2割未満
I 教育活動の状況	☐	☐	☐	☐	☐
II 教育成果の状況	☐	☐	☐	☐	☐

【研究面を担当された評価者のみ回答】

(1) -b 主担当・副担当をされた学部・研究科等について、書面調査段階における評価を確信をもって行うことができましたか。それぞれ以下の5段階から選択ください。

	8割以上	6～8割	4～6割	2～4割	2割未満
I 研究活動の状況	☐	☐	☐	☐	☐
II 研究成果の状況	☐	☐	☐	☐	☐

【研究面を担当された評価者のみ回答】

(2) 「研究成果の状況」の分析項目については、学部・研究科等を代表する研究業績（専任教員数の原則20%を上限）の「研究業績水準判定結果一覧表」（SS, S, S未満の数・割合やSSとした判断根拠）及びその集計結果を評価者に提供し、それらを参考に評価するようお願いしましたが、適切でしたか。

- ☐ 適切であった
- ☐ おおむね適切であった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ あまり適切ではなかった
- ☐ 適切ではなかった

(3) 現況分析部会において段階判定及び判断理由等の調整を行いました。

(3) -a 部会審議によって調整した結果は、当初（書面調査段階）の評価結果とどの程度一致していましたか。当てはまる割合を選択ください。*

- ☐ 8割以上
- ☐ 6～8割
- ☐ 4～6割
- ☐ 2～4割
- ☐ 2割未満

(3) -b 調整を経て決定された評価内容は、評価者として納得のいくものとなりましたか。*

- ☐ 納得のいくものとなった
- ☐ おおむね納得のいくものとなった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ あまり納得のいくものではなかった
- ☐ 納得のいくものではなかった

(4) 評価がやりやすかった点、やりにくかった点があれば、以下にご記入ください。

回答を入力

3/5 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

III 評価作業と事前研修について

(1) 評価作業はマイクロソフト社のExcelによる「書面調査シート」で行っていただきました。その使い勝手はいかがでしたか。*

- ☐ 良かった
- ☐ おおむね良かった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ やや悪かった
- ☐ 悪かった

(2) ファイルの受け渡しを、書面調査システムを用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。*

- ☐ 良かった
- ☐ おおむね良かった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ やや悪かった
- ☐ 悪かった

(3) -1 大学等の書面調査等にかかった、おおむねの作業時間をお答えください（おおむね〇〇時間、の〇〇の部分のみ半角英数でお答えください）*

回答を入力

(3) -2 評価を担当した現況調査表の数(担当の学部・研究科等の数)に関して、当てはまるものを以下の5段階から選択ください。*

- ☐ 適切だった
- ☐ おおむね適切だった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ やや多かった
- ☐ 非常に多かった

(4) 新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、動画を視聴することによる研修としましたが、評価方法を理解できましたか。以下の5段階から選択ください。*

- ☐ 理解できた
- ☐ おおむね理解できた
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ あまり理解できなかった
- ☐ 理解できなかった

4/5 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#)・[利用規約](#)・[プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

IV その他

その他、現況分析作業全体を通じてお気づきがあればご記入ください。

回答を入力

回答のコピーが指定したアドレスにメールで送信されます。

5/5 ページ

戻る

送信

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。



このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#)・[利用規約](#)・[プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

中期目標の達成状況評価作業に関する評価者アンケート

当機構では評価実施後に評価方法の妥当性を検証し、今後の改善に役立てていくこととしております。以下のアンケートにご協力くださいますよう、お願い申し上げます。
なお、回答は個人名が特定されないように処理いたします。また、本アンケートは評価結果を確定し公表する前に実施しておりますが、ご回答の内容が評価結果に影響を与えることはありません。

○今回実施した中期目標の達成状況評価の概要

「中期目標の達成状況評価」は、国立大学法人及び大学共同利用機関法人（以下「法人」という。）の教育研究に関する中期目標の達成状況及び中期計画の実施状況について法人単位で実施する評価です。今回の評価は、評価者（達成状況判定会議専門委員）が法人から提出された「達成状況報告書」等を基に書面調査を行い、法人へのヒアリングを経て、評価結果を取りまとめるというプロセスで実施しました。

○本アンケートの構成

アンケートは下記のⅠ～Ⅳ（全21問）で構成されています。

- Ⅰ 達成状況報告書について
- Ⅱ 評価方法・結果について
- Ⅲ 評価作業と事前研修について
- Ⅳ その他

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

ご芳名 *

回答を入力

1/5 ページ

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

中期目標の達成状況評価作業に関する評価者アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

Ⅰ 達成状況報告書について

（１）法人から提出された達成状況報告書の記載内容についてお聞きします。

① 主担当・副担当をした法人から提出された達成状況報告書（別添資料を含む）について、以下に該当する記載はどの程度ありましたか。以下の項目ごとに当てはまる割合を選択してください。*

	2割未満	2～4割	4～6割	6～8割	8割以上
a. 中期目標・計画の達成状況が明確に記されていた。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 計画実施により得られた成果が明確に示されていた。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 評価するのに必要な根拠・データが報告書内に記されていた。	☐	☐	☐	☐	☐
d. 法人の教育研究活動の実態がわかるものであった。	☐	☐	☐	☐	☐
e. 優れた点や特色ある点がわかるものであった。	☐	☐	☐	☐	☐
f. 改善を要する点がわかるものであった。	☐	☐	☐	☐	☐
g. 一般社会に理解しやすい報告書等であった。	☐	☐	☐	☐	☐
h. 全体的に見て、達成状況報告書等は評価を行うのに十分に書かれていた。	☐	☐	☐	☐	☐

② 法人から提出された達成状況報告書の達成状況の具体的な記載内容や根拠データ・資料について、以下のような問題を感じましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。*

	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
a. 活動や成果の記載内容が法人ごとに多様であったために、評価がしづかった。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 記載の分量が法人ごとに多様であったために、評価がしづかった。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 根拠データ・資料の内容や記載方法が法人ごとに多様であったため、解釈しづかった。	☐	☐	☐	☐	☐

(2) 機構が設定した達成状況報告書の書式についてお聞きします。

① 機構が設定した以下のような達成状況報告書の書式は、評価作業を実施する上で適切なものでしたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	適切でなかった	あまり適切でなかった	どちらとも言えない	おおむね適切だった	適切だった
a. 中期目標小項目ごとに法人が総括を記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 中期計画ごとに法人が実施状況を記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 中期計画ごとに小項目の達成に向けて得られた実績を法人が記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
d. 中期計画ごとに2020年度、2021年度の実施予定を法人が記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
e. 中期計画ごとに法人が段階判定を記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
f. 優れた点・今後の課題等を法人が判断して記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
g. 個性の伸長に向けた取組に関連する中期計画を法人が指定する。	☐	☐	☐	☐	☐

② 達成状況報告書のページ数（分量）は、評価を実施する上で適切でしたか。当てはまるものを選択してください。*

- ☐ 少なかった
- ☐ やや少なかった
- ☐ 適切だった
- ☐ やや多かった
- ☐ 多かった

2/5 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・私用禁止・プライバシーポリシー

Google フォーム

中期目標の達成状況評価作業に関する評価者アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

II 評価方法・結果について

(1) 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の評価について
「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の評価に当たっては、計画どおり実施できていない場合においても、教育研究の質の向上や高い研究水準の実現が確認できる場合には、プロセスや内容等を考慮し、判定することとなっています。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に該当する中期計画の評価を問題なくできましたか。当てはまるものを選択してください。*

- ☐ 評価しづらかった
- ☐ やや評価しづらかった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ おおむね評価しやすかった
- ☐ 評価しやすかった

(2) 現況分析結果等の活用について

中期目標小項目及び中期計画の達成状況の評価に当たっては、関連する学部・研究科等の現況分析結果を勘案し、中期目標小項目及び中期計画において研究の成果に関する言及がある場合には、関連する研究業績水準判定結果を勘案することとしています。また、法人が達成状況報告書を記載する際に、必要に応じ、直近の機関別認証評価結果等を根拠資料として示すことができることとし、評価者は該当の資料を参照し、評価することとしています。さらに、学生数や外部資金に関する指標の推移などの定量的データを「データ分析集」として評価者に提供しました。

評価の際に以下の結果及び参考資料はどの程度参考になりましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。*

	参考にならなかった	あまり参考にならなかった	どちらとも言えない	おおむね参考になった	参考になった
a. 現況分析結果	☐	☐	☐	☐	☐
b. 研究業績水準判定結果	☐	☐	☐	☐	☐
c. 機関別認証評価結果	☐	☐	☐	☐	☐
d. データ分析集	☐	☐	☐	☐	☐

(3) 書面調査について

書面調査段階において、評価判断（段階判定や判断理由の作成）をどの程度確信をもって行うことができましたか。当てはまる割合を選択してください。*

- ☐ 2割未満
- ☐ 2～4割
- ☐ 4～6割
- ☐ 6～8割
- ☐ 8割以上

(4) ヒアリング及び達成状況判定会議について

① 今回の評価では、法人にヒアリングに向けての確認事項の照会や資料提出の依頼を行った上で、ヒアリングを行うという方法をとりました。この方法は、評価する際に適切と感じましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。*

	適切でなかった	あまり適切でなかった	どちらとも言えない	おおむね適切だった	適切だった
a. 法人へのヒアリングに向けての確認事項の照会や資料提出の依頼	☐	☐	☐	☐	☐
b. ヒアリングにおける質疑応答による調査	☐	☐	☐	☐	☐

② 新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、ヒアリング及び達成状況判定会議をオンラインにより開催しました。その際、質疑応答や意思疎通に支障はありませんでしたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。*

	支障があった	やや支障があった	どちらとも言えない	おおむね支障がなかった	支障がなかった
a. 技術面（オンライン会議ツール、通信回線、機材等の不具合や使いにくさにより、音声・映像の送受信に支障をきたすことがなかったか）	☐	☐	☐	☐	☐
b. コミュニケーション面（直接対面しないスタイルにより、発言や場の雰囲気の際知等に支障をきたすことがなかったか）	☐	☐	☐	☐	☐

（５）中期目標小項目の段階判定の基準は以下のようなものでした（下表参照）。これらの基準は判断する際に明確でしたか。以下の５段階から当てはまるものを選択してください。*

小項目の段階判定の区分表		
判定を示す記述	判断する考え方	判断の基準
中期目標の達成に向けて進捗し、特筆すべき実績を上げている（【3】判定）	取組や活動、成果の内容からみて、中期目標の達成に向けて進捗し、かつ、特筆すべき実績を上げていると判断される場合	○中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる場合 その上で、次の2点を満たす場合 ・目安として平均値が5以上 ・特筆すべき実績が認められる場合 ※「特筆すべき実績」とは、「優れた点」や「特色ある点」を顕著とし、以下の観点から総合的に判断 ① 教育研究の特筆すべき質の向上 ② 個性の伸長への特筆すべき実果
中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている（【4】判定）	取組や活動、成果の内容からみて、中期目標の達成に向けて進捗し、かつ、優れた実績を上げていると判断される場合	○中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる場合 その上で、次の2点を満たす場合 ・目安として平均値が5以上 ・優れた実績が認められる場合 ※「優れた実績」とは、「優れた点」や「特色ある点」を顕著とし、以下の観点から総合的に判断 ① 教育研究の大きな質の向上 ② 個性の伸長への大きな実果
中期目標の達成に向けて進捗している（【3】判定）	取組や活動、成果の内容からみて、中期目標の達成に向けて進捗していると判断される場合	○中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる場合
中期目標の達成に向けて十分に進捗している（【2】判定）	取組や活動、成果の内容からみて、中期目標の達成に向けて十分に進捗しているとはいえないと判断される場合	○小項目の判定「中期目標の達成に向けて進捗している」の「判断の基準」に該当しない場合で、次の2点を総合的に判断する ・目安として平均値が3未満 ・中期計画の実施により、小項目の達成が十分に見込まれない場合 ※小項目の判定「中期目標の達成に向けて進捗していない」の「判断の基準」に該当するものを除く
中期目標の達成に向けて進捗していない（【1】判定）	取組や活動、成果の内容からみて、中期目標の達成に向けて進捗していないと判断される場合	○小項目の判定「中期目標の達成に向けて進捗している」の「判断の基準」に該当しない場合で、次の2点を総合的に判断する ・目安として平均値が3未満 ・中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれない場合

- ☐ 明確でなかった
- ☐ あまり明確でなかった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ おおむね明確であった
- ☐ 明確であった

（６）書面調査の後に、2回の達成状況判定会議やヒアリングを行い、評価結果を決定しました。その判定や記載内容は評価者として納得のいくものとなりましたか。当てはまる割合を選択してください。*

- ☐ 2割未満
- ☐ 2～4割
- ☐ 4～6割
- ☐ 6～8割
- ☐ 8割以上

3/5 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでバスノードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

中期目標の達成状況評価作業に関する評価者アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

Ⅲ 評価作業と事前研修について

（１）書面調査シートについて

評価作業はマイクロソフト社のExcelによる「書面調査シート」で行っていただきました。その使い勝手はいかがでしたか。当てはまるものを選択してください。*

- ☐ 悪かった
- ☐ やや悪かった
- ☐ どちらでもない
- ☐ おおむね良かった
- ☐ 良かった

（２）書面調査システムによる作業について

ファイルの受け渡しを、書面調査システムを用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。当てはまるものを選択してください。*

- ☐ 悪かった
- ☐ やや悪かった
- ☐ どちらでもない
- ☐ おおむね良かった
- ☐ 良かった

(3) 作業時間等について

評価作業（会議等への出席を除いた、書面調査シートへの入力や達成状況報告書の確認などの作業）にかかった、おおよその作業時間をお答えください。

a. 主担当の方にお伺いします。

主担当の法人の書面調査等にかかった時間として、おおむね〇時間（半角数字）

回答を入力

副担当の法人の書面調査等にかかった全体の時間として、おおむね〇時間（半角数字）

回答を入力

b. 副担当（主担当法人がない方）にお伺いします。

チーム担当の法人の書面調査等にかかった時間として、おおむね〇時間（半角数字）

回答を入力

(4) チームの法人の構成等について

① 担当チーム内の法人の構成は適切でしたか。当てはまるものを選択してください。*

- ☐ 適切でなかった
- ☐ あまり適切でなかった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ おおむね適切だった
- ☐ 適切だった

② チームごとの担当法人の数は適切でしたか。当てはまるものを選択してください。*

- ☐ 非常に多かった
- ☐ 若干多かった
- ☐ 適切だった
- ☐ 若干少なかった
- ☐ 非常に少なかった

(5) 評価者研修について

新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、評価担当者研修については動画を視聴する方式としましたが、いかがでしたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	おおむね当てはまる	当てはまる
a. 動画内の説明により評価方法を理解できた。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 動画配信サービス（MOOGA）による動画視聴に支障はなかった。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 動画視聴後の問合せに対する事務局の対応は十分であった。	☐	☐	☐	☐	☐

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー。

Google フォーム

中期目標の達成状況評価作業に関する評価者アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

VI その他

(1) その他、全体的にお気づきの課題点や良かった点があればご記入ください。

回答を入力

5/5 ページ

戻る

送信

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー。

Google フォーム

中期目標の達成状況評価作業に関する評価者アンケート

当機構では評価実施後に評価方法の妥当性を検証し、今後の改善に役立てていくこととしております。以下のアンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。
なお、回答は個人名が特定されないように処理いたします。また、本アンケートは評価結果を確定し公表する前に実施しておりますが、ご回答の内容が評価結果に影響を与えることはありません。

＜今回実施した中期目標の達成状況評価の概要＞

【中期目標の達成状況評価】は、国立大学法人及び大学共同利用機関法人（以下「法人」という。）の教育研究に関する中期目標の達成状況及び中期計画の実施状況について法人単位で実施する評価です。今回の評価は、評価者（達成状況判定会議等委員）が法人から提出された「達成状況報告書」等を基に審査を行い、法人へのヒアリングを経て、評価結果を取りまとめるといったプロセスで実施しました。

＜本アンケートの構成＞

アンケートは下記のⅠ～Ⅳ（全14問）で構成されています。

- Ⅰ 達成状況報告書について
- Ⅱ 評価方法・結果について
- Ⅲ 評価作業と信頼性評価について
- Ⅳ その他

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

※必須

ご芳名 *

回答を入力

1/5 ページ

次へ

フォームをクリア

Google フォームで「スワード」を送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

中期目標の達成状況評価作業に関する評価者アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

※必須

I 達成状況報告書について

（1）法人から提出された達成状況報告書の記載内容についてお聞きします。

法人から提出された達成状況報告書（別添資料を含む）について、以下に該当する記載はどの程度ありましたか。以下の項目ごとに当てはまる割合を選択してください。 *

	2割未満	2～4割	4～6割	6～8割	8割以上
a. 中期目標・計画の達成状況が明確に記載されていた。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 計画実施により得られた成果が明確に示されていた。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 評価するのに必要な根拠・データが報告書内に記されていた。	☐	☐	☐	☐	☐
d. 法人の教育研究活動の実態がわかるものであった。	☐	☐	☐	☐	☐
e. 優れた点や特色ある点がわかるものであった。	☐	☐	☐	☐	☐
f. 改善を要する点がわかるものであった。	☐	☐	☐	☐	☐
g. 一般社会に理解しやすい報告書等であった。	☐	☐	☐	☐	☐
h. 全体的に見て、達成状況報告書等は評価を行うのに十分に書かれていた。	☐	☐	☐	☐	☐

〔2〕機構が設定した達成状況報告書の書式についてお聞きします。

① 機構が設定した以下のような達成状況報告書の書式は、評価作業を実施する上で適切なものでしたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。 *

	適切でなかった	あまり適切でなかった	どちらとも言いえない	おおむね適切だった	適切だった
a. 中期目標・計画ごとに法人が報告を記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 中期計画ごとに法人が実施状況を記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 中期計画ごとに小項目の達成に向けて得られた実績を法人が記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
d. 中期計画ごとに2020年度、2021年度の実施予定を法人が記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
e. 中期計画ごとに法人が中期計画を記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
f. 優れた点・今後の課題等を法人が半期別として記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
g. 個性の伸長に向けた取組に関連する中期計画を法人が指定する。	☐	☐	☐	☐	☐

② 達成状況報告書のページ数（分量）は、評価を実施する上で適切でしたか。当てはまるものを選択してください。 *

- ☐ 少なかった
- ☐ やや少なかった
- ☐ 適切だった
- ☐ やや多かった
- ☐ 多かった

2/5 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームで「スワード」を送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

中期目標の達成状況評価作業に関する評価者アンケート

Googleにログインすると作業内容を保存できます。詳細

必須

Ⅱ 評価方法・結果について

【1】 現状分析結果等の活用について

中期目標・小項目及び中期計画の達成状況の評価に当たっては、関連する学部・研究科等の現状分析結果を参照し、中期目標・小項目及び中期計画において研究の遂行に関する旨がある場合には、関連する研究業績水準判定結果を提案することとしていました。また、法人が達成状況報告書を作成する際に、必要に応じて、過去の達成状況評価結果等を参照資料として示すことができることとし、評価者は該当の資料を参照し、評価することとしていました。さらに、学生数や外部資金に関する指標の推移などの定量的データを「データ分析値」として評価者に提供しました。

評価の際に以下の結果及び参考資料はどの程度参考になりましたか、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。 *

	参考にならなかった	あまり参考にならなかった	どちらとも言えない	おおむね参考になった	参考になった
a. 現状分析結果	☐	☐	☐	☐	☐
b. 研究業績水準判定結果	☐	☐	☐	☐	☐
c. 機関別認証評価結果	☐	☐	☐	☐	☐
d. データ分析値	☐	☐	☐	☐	☐

【2】 ヒアリング及び達成状況判定会議について

① 今回の評価では、法人にヒアリングに向けての確認事項の照会や資料提出の依頼を行った上で、ヒアリングを行うという方法をとりました。この方法は、評価する際に適切と感じましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。 *

	適切でなかった	あまり適切でなかった	どちらとも言えない	おおむね適切だった	適切だった
a. 法人へのヒアリングに向けての確認事項の照会や資料提出の依頼	☐	☐	☐	☐	☐
b. ヒアリングにおける質疑応答による調査	☐	☐	☐	☐	☐

② 新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、ヒアリング及び達成状況判定会議をオンラインにより開催しました。その際、質疑応答や意思疎通に支障はありましたか、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。 *

	支障があった	やや支障があった	どちらとも言えない	おおむね支障がなかった	支障がなかった
a. 技術面【オンライン会議ツール、通信距離、機材等の不具合や使いにくさにより、音声・映像の送受信に支障をきたすことがなかったか】	☐	☐	☐	☐	☐
b. コミュニケーション面【画対面しないスタイルにより、発言や場の雰囲気、顔の表情等に支障をきたすことがなかったか】	☐	☐	☐	☐	☐

【3】 中期目標・小項目の段階判定の基準は以下のようなものでした（下表参照）。これらの基準は判断する際に明確でしたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。 *

小項目の段階判定の区分表		
判定を示す記述	判断する考え方	判断の基準
中期目標の達成に向けて進捗し、特筆すべき実績をおいている（【3】判定）	数値や活動、成果の内容からみて、中期目標の達成に向けて進捗し、かつ、特筆すべき実績を上げていると判断される場合	○中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実進により、小項目の達成が見込まれる場合 その上で、次の2点を満たす場合 ・目安として平均値が2.5以上 ・特筆すべき実績が認められる場合 ※「優れた実績」とは、「優れた点」や「特色ある点」を要素とし、以下の観点から総合的に判断 ① 教育研究の特筆すべき質の向上 ② 個性の伸長への特筆すべき実効
中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績をおいている（【4】判定）	数値や活動、成果の内容からみて、中期目標の達成に向けて進捗し、かつ、優れた実績を上げていると判断される場合	○中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実進により、小項目の達成が見込まれる場合 その上で、次の2点を満たす場合 ・目安として平均値が2.5以上 ・優れた実績が認められる場合 ※「優れた実績」とは、「優れた点」や「特色ある点」を要素とし、以下の観点から総合的に判断 ① 教育研究の大きな質の向上 ② 個性の伸長への大きな実効
中期目標の達成に向けて進捗している（【5】判定）	数値や活動、成果の内容からみて、中期目標の達成に向けて進捗している場合	○中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実進により、小項目の達成が見込まれる場合
中期目標の達成に向けて進捗しているとはいえない（【2】判定）	数値や活動、成果の内容からみて、中期目標の達成に向けて十分に進捗しているとはいえないと判断される場合	○小項目の判定「中期目標の達成に向けて進捗している」の「判断の基準」に該当しない場合で、次の2点を総合的に判断する ・目安として平均値が2.0未満 ・中期計画の実進により、小項目の達成が十分に見込まれない場合 ※小項目の判定「中期目標の達成に向けて進捗していない」の「判断の基準」に該当するものを除く
中期目標の達成に向けて進捗していない（【1】判定）	数値や活動、成果の内容からみて、中期目標の達成に向けて進捗していないと判断される場合	○小項目の判定「中期目標の達成に向けて進捗している」の「判断の基準」に該当しない場合で、次の2点を総合的に判断する ・目安として平均値が1.5未満 ・中期計画の実進により、小項目の達成が見込まれない場合

- ☐ 明確でなかった
- ☐ あまり明確でなかった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ おおむね明確であった
- ☐ 明確であった

【4】 書面調査の後に、2回の達成状況判定会議やヒアリングを行い、評価結果を決定しました。その判定や記載内容は評価者として納得のいくものとなりましたか、当てはまる割合を選択してください。 *

- ☐ 2割未満
- ☐ 2～4割
- ☐ 4～6割
- ☐ 6～8割
- ☐ 8割以上

35 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでバースードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

中期目標の達成状況評価作業に関する評価者アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

※必須

Ⅲ 評価作業と事前研修について

【1】作業時間等について

評価作業（会議等への出席を除いた、達成状況報告書の確認などの作業）にかかった、おおよその作業時間をお答えください。

チーム担当の法人の書面調査等にかかった時間として、おおよその時間（半角数字）

回答を入力

【2】チームの法人の構成等について

① 担当チーム内の法人の構成は適切でしたか。当てはまるものを選択してください。 *

- ☐ 適切でなかった
- ☐ あまり適切でなかった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ おおむね適切だった
- ☐ 適切だった

② チームごとの担当法人の数は適切でしたか。当てはまるものを選択してください。 *

- ☐ 非常に多かった
- ☐ 若干多かった
- ☐ 適切だった
- ☐ 若干少なかった
- ☐ 非常に少なかった

【3】評価者研修について

新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、評価者研修については動画を視聴する方式としましたが、いかがでしたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	おおむね当てはまる	当てはまる
a. 動画内の説明により評価方法を理解できた。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 動画配信サービス【MOGGA】による動画視聴に支援はなかった。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 動画視聴後の問合せに対する事務局の対応は十分であった。	☐	☐	☐	☐	☐

4/5 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#)・[利用規約](#)・[プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

中期目標の達成状況評価作業に関する評価者アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

Ⅵ その他

【1】 その他、全体にお気づきの課題点や良かった点があればご記入ください。

回答を入力

5/5 ページ

戻る

送信

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#)・[利用規約](#)・[プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

各国立大学法人の長
各大学共同利用機関法人の長

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構長
福田秀樹
(公同省略)

国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況について
の評価に関する検証アンケートの実施について（依頼）

当機構の評価事業に関し、日頃から御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
この度、当機構において実施した「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」について、評価への対応状況や、今後の評価のあり方に対する御意見を集約し、将来の評価システムの設計の参考にさせていただくとともに、これに基づく評価の検証を実施したく、この度、標記のアンケート調査を実施することいたしました。
つきましては、御多用のことと存じますが、3種類のアンケート調査について、**令和3年7月16日（金）**までに以下のURLから御回答を賜りますようお願い申し上げます。

①教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート
<https://forms.gle/HGvzSxmX5a4vYRW6>

②学部・研究科等の教育の「現況分析」に関する検証アンケート
<https://forms.gle/XAerKsbYssoWbbmv9>
※現況調査表を提出した組織単位ごとに御回答をお願いいたします。
※大学共同利用機関法人においては回答不要です。

③学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート
<https://forms.gle/nqwkkeQgw22nstN7>
※現況調査表を提出した組織単位ごとに御回答をお願いいたします。

<担当者連絡先>
独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
評価事業部 評価企画課
【アンケートフォームに関すること】
企画第1係（原、千葉）
TEL：042-307-1612、1613
E-mail：kikaku@niad.ac.jp
【アンケート項目の内容に関すること】
国立大学評価室 評価システム係（藤江、柳谷、山田、佐藤）
TEL：042-307-7913、7915、7916、7918
E-mail：houjinsystem@niad.ac.jp

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

本アンケートでは、以下の5つの内容に大別して、お伺いします。
Ⅰ 貴法人における達成状況報告書の作成作業について
Ⅱ 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について
Ⅲ 評価による貴法人での効果・影響について
Ⅳ 自己評価のための体制等について
Ⅴ 今後の評価のあり方について

2/10 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでリフトを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート

平素より、当機構における評価事業に対し、ご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、当機構では、この度の国立大学法人及び大学共同利用機関法人の教育研究評価について、評価への対応状況や今後の評価のあり方に対するご意見を集約し、将来の評価システムの設計の参考にさせていただきたいと考えております。

つきましては、下記のとおりアンケート調査を実施しますので、ご多用のことと存じますが、何卒ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

◆ご回答に当たってのお願い

1. 本アンケートでは、当機構が実施した「国立大学法人及び大学共同利用機関法人（以下「法人」という。）における教育研究の状況についての評価」のうち、「中期目標の達成状況評価」を中心にご意見を伺います。文部科学省の国立大学法人評価委員会が別途実施しました業務運営・財務内容等の評価や年度評価については本調査の対象外となります。
2. 学部・研究科等の「現況分析」については、本調査でも一部質問しますが、詳細は別途、現況分析に関するアンケートにて現況調査表を提出した単位ごとにご回答いただきます。
3. 本アンケートは、法人からの率直なご意見を伺い、今後の評価の改善に資することを目的に行います。そのため、貴法人において達成状況報告書を中心的にまとめられた方（評価担当学長、評価室長等）に回答をお願いします。なお、ご提出いただいた回答は法人名や個人名が特定されないよう処理いたします。
4. 一つの大学又は大学共同利用機関法人につき、一回のみご回答ください。

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

貴法人名 *

回答を入力

ご芳名 *

回答を入力

ご回答者の評価に関する役職の名称 *

（例：評価担当理事、自己点検評価委員会委員長、評価室長等）

回答を入力

1/10 ページ

次へ

フォームをクリア

Google フォームでリフトを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

Ⅰ 貴法人における達成状況報告書の作成作業について

問1 達成状況報告書作成の際の自己評価について

(1) 達成状況報告書を作成した際、自己評価を行いにくい点がありましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。 *

	当てはまる	おおむね当てはまる	どちらとも言えない	あまり当てはまらない	当てはまらない
a. 中期目標・計画の中に達成状況を自己評価しづらい点があった。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 法人として重要な事項が中期目標・計画とは別に実施されており、現在の活動実態と適合しないところがあった。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 自己評価において、中期計画の段階判定の基準が理解しづかった。	☐	☐	☐	☐	☐

(2) 達成状況報告書の具体的な記載内容や根拠データ・資料について、以下のような問題を感じましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
a. 活動や成果の記載内容に迷うことがあった。	☐	☐	☐	☐	☐
b. どの程度詳しく記載すべきか迷うことがあった。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 根拠となる資料・データの内容や記載方法に迷うことがあった。	☐	☐	☐	☐	☐

(3) 今回の評価では、「戦略性が高く意欲的な目標・計画」は、計画どおり実施できていなくとも、プロセスや内容等を考慮し、判定することとしていました。「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、自己評価を行いやすかったですか。当てはまるものを選択してください。（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」のない法人は「どちらとも言えない」を選択）

- ☐ 行いづらかった
- ☐ しばしば行いづらいことがあった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ おおむね行いやすかった
- ☐ 行いやすかった

3/10 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームで「スワード」を送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

問2 達成状況報告書の書式について

(1) 機構が設定した以下のような達成状況報告書の書式は、達成状況報告書を作成する上で適切なものでしたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	適切でなかった	あまり適切でなかった	どちらとも言えない	おおむね適切であった	適切であった
a. 中期目標小項目ごとに法人が総括を記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 中期計画ごとに法人が実施状況を記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 中期計画ごとに小項目の達成に向けて得られた実績を法人が記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
d. 中期計画ごとに2020年度、2021年度の実施予定を法人が記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
e. 中期計画ごとに法人が自己判定を記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
f. 優れた点、今後の課題等を法人が判断して記載する。	☐	☐	☐	☐	☐
g. 個性の伸長に向けた取組に関連する中期計画を法人が指定する。	☐	☐	☐	☐	☐

!

(2) 達成状況報告書のページ数の上限は、達成状況報告書を作成する上で適切でしたか。当てはまるものを選択してください。

- ☐ 少なかった
- ☐ やや少なかった
- ☐ 適切であった
- ☐ やや多かった
- ☐ 多かった

4/10 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームで「スワード」を送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

問3 参考資料「データ分析集」の活用について

今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金に関する指標の推移などの定量的データを提供しました。

(1) 「データ分析集」は達成状況報告書を作成する上で根拠となる資料・データとして参考になりましたか。当てはまるものを選択してください。

- ☐ 「データ分析集」を確認しなかった
- ☐ 全く参考にならなかった
- ☐ ほとんど参考にならなかった
- ☐ ある程度参考になった
- ☐ 多くの場合に参考になった
- ☐ 非常に参考になった

(2) 「データ分析集」の他法人のデータや全法人の傾向等の情報は参考になりましたか。当てはまるものを選択してください。

- ☐ 他法人等の「データ分析集」を確認しなかった
- ☐ 全く参考にならなかった
- ☐ ほとんど参考にならなかった
- ☐ ある程度参考になった
- ☐ 多くの場合に参考になった
- ☐ 非常に参考になった

5/10 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームで「スワード」を送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

*必須

問 4 貴法人から提出した達成状況報告書について

(1) 提出した達成状況報告書（別添資料を含む）について、どのような感想をお持ちですか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。*

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	おおむね当てはまる	当てはまる
a. 中期目標・計画の達成状況を明確に記載することができた。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 中期計画の実施により得られた成果を明確に示すことができた。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 評価に必要な根拠・データを達成状況報告書等に記載することができた。	☐	☐	☐	☐	☐
d. 法人の教育研究活動の実態をわかりやすく示すことができた。	☐	☐	☐	☐	☐
e. 優れた点や特色ある点をわかりやすく示すことができた	☐	☐	☐	☐	☐

当てはまらない
はい

あまり当てはまらない

どちらとも言えない

おおむね当てはまる

当てはまる

f. 今後の課題をわかりやすく示すことができた。

☐

☐

☐

☐

☐

g. 一般社会の人に理解しやすい達成状況報告書を作成することができた。

☐

☐

☐

☐

☐

h. 全体として、十分に自己評価を行うことができた。

☐

☐

☐

☐

☐

(2) ファイルの提出には、書面調査システムを用いることとしました。その使い勝手はいかがでしたか。当てはまるものを選択してください。*

- ☐ 悪かった
- ☐ やや悪かった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ おおむね良かった
- ☐ 良かった

問 5 達成状況報告書の作成作業全般について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

回答を入力

6/10 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでバーストを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#) [利用規約](#) [プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

*必須

Ⅱ 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について

問 1 確認事項の照会・ヒアリングについて

(1) 今回の評価では、機構から法人に確認事項の照会や資料提出の依頼を行った上で、ヒアリングを行うという方法をとりました。この方法は適切と感じましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。*

	適切でなかった	あまり適切でなかった	どちらとも言えない	おおむね適切であった	適切であった
a. 確認事項の照会や資料提出の依頼の方法（時期や量）	☐	☐	☐	☐	☐
b. 確認事項の照会や資料提出の依頼の内容	☐	☐	☐	☐	☐
c. ヒアリングの実施方法（時間や進行）	☐	☐	☐	☐	☐
d. ヒアリングにおける質疑応答の内容	☐	☐	☐	☐	☐

支障があった

やや支障があった

どちらとも言えない

おおむね支障がなかった

支障がなかった

a. 技術面（オンライン会議ツール、通信回線、機材等の不具合や使いにくさにより、音声・映像の送受信に支障をきたすことがなかったか）

☐

☐

☐

☐

☐

b. コミュニケーション面（直接対面しないスタイルにより、発言や場の雰囲気の察知等に支障をきたすことがなかったか）

☐

☐

☐

☐

☐

(3) 確認事項の照会やヒアリングについて、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

回答を入力

問 2 意見の申立てについて

意見の申立ての結果について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

回答を入力

問3 評価結果（評価報告書）について

貴法人の評価結果の内容について、全体的にどのように思いましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。*

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	おおむね当てはまる	当てはまる
a. 貴法人の中期目標・計画の達成状況を反映していた。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 貴法人において中期目標・計画により得られた教育研究上の成果を反映していた。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 段階判定結果は納得のいくものであった。	☐	☐	☐	☐	☐
d. 判定結果の根拠は明確であった。	☐	☐	☐	☐	☐
e. 総じて、貴法人の中期目標・計画の達成状況が適正に評価された。	☐	☐	☐	☐	☐

問4 評価方法や評価結果について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

回答を入力

7/10 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

Ⅲ 評価による貴法人での効果・影響について

問1 評価の効果について

中期目標・計画に基づいて評価を行うことによって、貴法人において以下の効果や影響が生じた（あるいは今後に生じる）と思いますか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。*

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	おおむね当てはまる	当てはまる
a. 貴法人の中期目標・計画に基づく運営サイクルが確立できた。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 教育研究の課題が把握できた。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 全体的にみて、教育活動が改善した。 （大学共同利用機関法人は「どちらとも言えない」を選択）	☐	☐	☐	☐	☐
d. 全体的にみて、研究活動が改善した。	☐	☐	☐	☐	☐
e. 貴法人の個性の伸長を促進できた。	☐	☐	☐	☐	☐

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

Ⅳ 自己評価のための体制等について

問1 自己評価の体制・作業負担について

(1) 達成状況報告書の作成を開始した時期（各中期目標・計画の実施状況の記載を開始した時期）をご回答ください。*

選択

(2) 学部・研究科等から本部に提出された教育・研究の現況調査表（研究業績説明書を含む）について、本部において各現況調査表の記載内容の精査や調整を行いましたか。当てはまるものを選択してください。*

- ☐ ほとんど行わなかった
- ☐ あまり行わなかった
- ☐ ある程度行った
- ☐ おおむね行った
- ☐ 十分に行った

(3) 今回の達成状況報告書の作成に要した作業負担は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。当てはまるものを選択してください。 *

- ☐ 多かった
- ☐ やや多かった
- ☐ 適切であった
- ☐ やや少なかった
- ☐ 少なかった

(4) 達成状況報告書の作成にかかる作業負担、あるいはその効率化の要因についてお聞かせします。

① 作業を効率的に実施できた要因について、以下から当てはまるものを全て選択してください。（複数選択可）

- ☐ a. 法人内に目標・計画の進捗管理のためのデータベースがあることで、効率的に作業できた。
- ☐ b. これまでの年度目標・計画の進捗状況を積み重ねることで、効率的に作業できた。
- ☐ c. 目標・計画ごとに責任者が指定されていることで、効率的に作業できた。

② 上記以外に作業を効率的に実施できた要因、反対に作業負担が多くなった要因がありましたら、以下にご記入ください。

回答を入力

問2 機構による説明会及び研修会について

達成状況報告書の作成方法や評価全体の進め方については、機構が実施した説明会及び研修会により理解できましたか。当てはまるものを選択してください。 *

- ☐ 参加していない
- ☐ 理解できなかった
- ☐ あまり理解できなかった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ おおむね理解できた
- ☐ 理解できた

問3 実績報告書作成要領等について

達成状況報告書の作成方法は、「実績報告書作成要領」及び「第3期中期目標期間の教育研究の状況についての評価に関するQ & A」により理解できましたか。当てはまるものを選択してください。 *

- ☐ 理解できなかった
- ☐ あまり理解できなかった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ おおむね理解できた
- ☐ 理解できた

9/10 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでバーストを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

V 今後の評価のあり方について

問1 今後の評価の方向性について

今後の国立大学法人評価では、評価実施の目的として、どのようなことを重視すべきだと思いますか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。 *

	全くそう 思わない	そう 思わない	どちらとも 言えない	そう 思う	強くそう 思う
a. 法人の個性の伸長に、より寄与すべきである。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 中期目標・計画の達成状況の報告による社会への説明責任に、より焦点をおくべきである。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 法人内の管理運営サイクルの向上に、より寄与すべきである。	☐	☐	☐	☐	☐
d. 教育・研究活動の質的向上に、より寄与すべきである。	☐	☐	☐	☐	☐
e. 法人の教育研究の国際的水準や国際的競争力の向上に、より寄与すべきである。	☐	☐	☐	☐	☐

全くそう
思わない

そう
思わない

どちらとも
言えない

そう
思う

強くそう
思う

f. 法人内における業務や組織の改廃の判断へ、より寄与すべきである。

☐

☐

☐

☐

☐

g. 政府による運営費交付金の算定へ、より影響すべきである。

☐

☐

☐

☐

☐

h. 法人への公的支出の意義の明確化に、より寄与すべきである。

☐

☐

☐

☐

☐

i. 法人間の競争意識の向上に、より寄与すべきである。

☐

☐

☐

☐

☐

j. 法人に対する他の評価との関係を含めて、評価内容を整理すべきである。

☐

☐

☐

☐

☐

問2 今後の評価の方向性や評価方法のあり方について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

回答を入力

10/10 ページ

戻る

送信

フォームをクリア

Google フォームでバーストを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 学部・研究科等の教育の「現況分析」に関する検証アンケート

平素より、当機構における評価事業に対し、ご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、当機構では、この度の国立大学法人及び大学共同利用機関法人の教育研究評価について、評価への対応状況や今後の評価のあり方に対するご意見を集約し、将来の評価システムの設計の参考にさせていただきたいと考えております。

つきましては、下記のとおりアンケート調査を実施しますので、ご多用のことと存じますが、何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

◆ご回答に当たってのお願い

1. 本アンケートでは、当機構が実施した「国立大学法人及び大学共同利用機関法人（以下「法人」という。）における教育研究の状況についての評価」のうち、学部・研究科、研究所、センターなど（以下「学部・研究科等」という。）を対象とする現況分析についてお伺いします。
2. 回答は現況調査表を提出した組織単位ごとをお願いいたします。「教育の現況分析」と「研究の現況分析」では質問内容が一部異なりますので、該当するアンケートにてご回答ください。
3. 本アンケートは、法人からの率直なご意見を伺い、今後の評価の改善に資することを目的に行います。そのため、回答は貴学部・研究科等においてそれぞれの現況調査表を中心的にまとめられた方（学部長・研究科長、評価委員長等）をお願いいたします。
4. ご提出いただいた回答は、法人名・部署名や個人名が特定されないように処理いたします。

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

*必須

貴法人名 *

回答を入力

ご芳名 *

回答を入力

ご回答者の評価に関する役職の名称 *

(例：学部長、研究科長、評価委員長)

回答を入力

作成を担当した現況調査表の学部・研究科等名 *

回答を入力

貴学部・研究科等の学系 *

選択

1/7 ページ

次へ

[フォームをクリア](#)

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#)・[利用規約](#)・[プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 学部・研究科等の教育の「現況分析」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

*必須

- 本アンケートでは、以下の5つの内容に大別して、お伺いします。
- I 貴学部・研究科等における「教育に関する現況調査表」の作成作業について
 - II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について
 - III 評価による貴学部・研究科等の教育活動への効果・影響について
 - IV 自己評価のための体制等について
 - V 今後の評価のあり方について

2/7 ページ

戻る

次へ

[フォームをクリア](#)

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#)・[利用規約](#)・[プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 学部・研究科等の教育の「現況分析」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

*必須

I 貴学部・研究科等における「教育に関する現況調査表」の作成作業について

問 1 現況調査表の書式や作成方法について

(1) 現況調査表では、分析項目の下に記載項目を設けて、記載項目ごとの具体的な記載内容や根拠データ・資料を、「現況調査表ガイドライン」によって学系別に示しました。

① このような方法により、貴学部・研究科等の個性的な取組を記載できたと思いますか。当てはまるものを選択してください。 *

- ☐ 全くそう思わない
- ☐ そう思わない
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ そう思う
- ☐ 強くそう思う

② このような方法により、以下のような問題を感じましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。*

	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう思わない	全くそう思 わない
a. 活動や成果をどのように記載すればよいか迷うことがあった。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 根拠となる資料・データの内容や様式をどのようにすればよいか迷うことがあった。	☐	☐	☐	☐	☐

(2) 現況調査表のページ数の上限は、現況調査表を作成する上で適切でしたか。当てはまるものを選択してください。*

- ☐ 少なかった
- ☐ やや少なかった
- ☐ 適切だった
- ☐ やや多かった
- ☐ 多かった

問2 「現況調査表ガイドライン」について

現況調査表を作成するに当たり、学系別に「指針」として参考となるよう示した「現況調査表ガイドライン」の中で、「基本的な記載事項」並びに、「第3期中期目標期間に係る特記事項」として「キーワード」及び「具体的な記載例」を事前に公表しました。
https://www.niad.ac.jp/media/006/201907/genkyou_guidelines_201907.pdf

(1) 「現況調査表ガイドライン」における「基本的な記載事項」について

基本的な記載事項の記述に当たっては、文章ではなく、根拠となる資料・データを提示する形を推奨しており、主として以下の4種類がありました。
法人が作成するデータとして
a. 学部・研究科等が独自に作成した資料・データ
b. ガイドラインの様式に示された資料・データ
機構から提供されるデータとして
c. 大学ポータルによるデータ分析集等
d. 政府公表データ

① a～dについて、「現況調査表ガイドライン」において現況調査表作成に必要な資料・データがどの程度網羅されていたか、当てはまるものを選択してください。*

	不十分だった	あまり十分では なかった	どちらとも 言えない	やや網羅され ていた	十分網羅され ていた
a. 学部・研究科等が独自に作成した資料・データ	☐	☐	☐	☐	☐
b. ガイドラインの様式に示された資料・データ	☐	☐	☐	☐	☐
c. 大学ポータルによるデータ分析集等	☐	☐	☐	☐	☐
d. 政府公表データ	☐	☐	☐	☐	☐

② 大学ポータルによるデータ分析集や政府公表データ等の指標については、評価に活用する際の重要度に応じて重要指標（◆）、分析指標（◇）、参考指標（・）の3種類に区分しましたが、その設定は適切でしたか。当てはまるものを選択してください。*

- ☐ 全くそう思わない
- ☐ そう思わない
- ☐ どちらとも
言えない
- ☐ そう思う
- ☐ 強くそう思う

③ 機構の大学機関別認証評価との関係を考慮し、領域6「教育課程と学習成果に関する基準」の記載内容との関係を整理し、資料・データの共通化を図りましたが、それにより今後の法人の自己評価にかかる負担は軽減すると思いますか。当てはまるものを選択してください。*

- ☐ 全くそう思わない
- ☐ そう思わない
- ☐ どちらとも
言えない
- ☐ そう思う
- ☐ 強くそう思う

(2) 「第3期中期目標期間に係る特記事項」として提示された「キーワード」及び「具体的な記載例」について、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。*

	全くそう 思わない	そう思わ ない	どちらとも 言えない	そう思 う	強くそう 思う
a. 記載する取組や成果のイメージが伝わった。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 例示の数や種類がより多ければよいと感じた。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 例示をより具体的にするとよいと感じた。	☐	☐	☐	☐	☐
d. 自学部・研究科等にふさわしい例示が少ないと感じた。	☐	☐	☐	☐	☐

問3 貴法人が提出した現況調査表について

(1) 提出した現況調査表（別添資料を含む）について、どのような感想をお持ちですか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。*

	当てはまら ない	あまり当て はまらない	どちらとも 言えない	おおむね 当てはまる	当てはまる
a. 学部・研究科等の目的を明確に記載することができた。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 教育活動による成果を具体的に説明することができた。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 教育活動の促している点を具体的に説明することができた。	☐	☐	☐	☐	☐
d. 評価するのに必要な根拠・データを現況調査表等に記載することができた。	☐	☐	☐	☐	☐
e. 一般社会の人に理解しやすい現況調査表等を作成することができた。	☐	☐	☐	☐	☐
f. 全体的に見て、現況調査表等の完成度は満足できるものとなった。	☐	☐	☐	☐	☐

(2) ファイルの提出には、書面調査システムを用いることとしました。その使い勝手はいかがでしたか。当てはまるものを選択してください。 *

- ☐ 悪かった
- ☐ やや悪かった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ おおむね良かった
- ☐ 良かった

問4 現況調査表の作成作業全般について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

回答を入力

3/7 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでリポートを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#)・[利用規約](#)・[プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 学部・研究科等の教育の「現況分析」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

*必須

II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について

問1 確認事項の照会について

今回の評価では、評価者から法人に分析に当たっての確認事項の照会や資料提出の依頼を行いました。この方法は適切と感じましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。 *

	適切でなかった	あまり適切でなかった	どちらとも言えない	おおむね適切であった	適切であった
a. 確認事項の照会や資料提出の依頼の方法（時期や量）	☐	☐	☐	☐	☐
b. 確認事項の照会や資料提出の依頼の内容	☐	☐	☐	☐	☐

問2 評価結果（現況分析結果）について

貴学部・研究科等の評価結果（現況分析結果）の内容について、全体的にどのような感じでしたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。 *

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	おおむね当てはまる	当てはまる
a. 貴学部・研究科等の目的を踏まえていた。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 貴学部・研究科等の教育の実態を捉えていた。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 各分析項目の段階判定は納得のいくものであった。	☐	☐	☐	☐	☐
d. 分析項目の優れた点又は特色ある点として指摘された内容は納得のいくものであった。	☐	☐	☐	☐	☐
e. 全体的に、適正に評価された。	☐	☐	☐	☐	☐

問3 評価方法や評価結果について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

回答を入力

4/7 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでリポートを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#)・[利用規約](#)・[プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 学部・研究科等の教育の「現況分析」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

*必須

III 評価による貴学部・研究科等の教育活動への効果・影響について

問1 評価の効果について

今回行った、教育の現況を自己分析して報告し、外部者の評価を受けるという一連の過程によって、貴学部・研究科等において以下の効果や影響が生じた（あるいは今後に生じる）と思いますか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。 *

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	おおむね当てはまる	当てはまる
a. 教育・学習の成果を重視するようになった。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 教育活動の質保証体制が進展した。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 教育内容の体系的意識するようになった。	☐	☐	☐	☐	☐
d. 特色ある取組を促進した。	☐	☐	☐	☐	☐
e. 学生のニーズを踏まえた教育を行うようになった。	☐	☐	☐	☐	☐
f. 教育活動の今後の課題を把握できた。	☐	☐	☐	☐	☐

当てはまらな
い

あまり当ては
まらない

どちらとも言
えない

おおむね当て
はまる

当てはまる

g. 教職員の間
で教育活動に
ついての組織
的な方向性が
共有された。

☐

☐

☐

☐

☐

h. 学部・研究
科等内での意
思疎通が深ま
った

☐

☐

☐

☐

☐

i. 社会に対し
法人の教育活
動を説明する
ことの重要性
が浸透した。

☐

☐

☐

☐

☐

j. 学部・研究
科や学科・専
攻等の部局間
の競争意識が
高まった。

☐

☐

☐

☐

☐

k. 法人間の競
争意識が生ま
れた。

☐

☐

☐

☐

☐

l. 全体的に見
て、教育活動
の改善に寄与
した。

☐

☐

☐

☐

☐

問2 評価結果の活用予定等について

貴学部・研究科等において、今回の評価結果（現況分析結果）の具体的な活用の
予定や、評価実施によるよい効果・影響、悪い効果・影響がありましたら、以下
にご記入ください。

回答を入力

戻る 次へ

5/7 ページ

フォームをクリア

Google フォームでバースードを送信しないでください。
このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシー
ポリシー

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法
人における教育研究の状況についての評
価」 学部・研究科等の教育の「現況分
析」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細
*必須

IV 自己評価のための体制等について

問1 自己評価の体制・作業負担について

(1) 教育に関する現況調査表の作成（各分析項目・記載項目）を開始した時期をご
回答ください。 *

選択

(2) 今回の現況調査表の作成に要した作業負担は、国立大学法人評価の持つ意義を
鑑みて、多かったですか、少なかったですか。当てはまるものを選択してください。 *

☐ 多かった

☐ やや多かった

☐ 適切であった

☐ やや少なかった

☐ 少なかった

(3) 今回の現況調査表の作成作業を効率的に実施できた要因、反対に作業負担が多
くなった要因がありましたら、以下にご記入ください。

回答を入力

戻る 次へ

6/7 ページ

フォームをクリア

Google フォームでバースードを送信しないでください。
このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシー
ポリシー

Google フォーム

問2 実績報告書作成要領等について

現況調査表の作成方法は、「実績報告書作成要領」、「現況調査表ガイドライン」及び「第3期中期目標期間の教育研究の状況についての評価に関するQ&A」により理解できましたか。当てはまるものを選択してください。 *

☐ 理解できなかった

☐ あまり理解できなかった

☐ どちらとも言えない

☐ おおむね理解できた

☐ 理解できた

戻る 次へ

6/7 ページ

フォームをクリア

Google フォームでバースードを送信しないでください。
このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシー
ポリシー

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法
人における教育研究の状況についての評
価」 学部・研究科等の教育の「現況分
析」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細
*必須

V 今後の評価のあり方について

問1 今後の評価の方向性について

今後の国立大学法人評価では、どのような評価のあり方を望みますか。以下の項
目ごとに当てはまるものを選択してください。 *

全くそう思わ
ない

そう思わない

どちらとも言
えない

そう思う

強くそう思う

a. 今後も各学
系（分野）の
大学教員を中
心とする評価
者が現況調査
表を評価する
方法で実施す
べきである。

☐

☐

☐

☐

☐

b. 現況調査表
に共通的に記
載すべき内容
をより詳細に
定めるべきで
ある。

☐

☐

☐

☐

☐

c. 共通的に設
定したデー
タ・指標をよ
り用いた評価
とすべきであ
る。

☐

☐

☐

☐

☐

d. 学系（分
野）ごとの記
載項目や評価
基準をより明
確にすべきで
ある。

☐

☐

☐

☐

☐

参考 30

全くそう思わない

そう思わない

どちらとも言えない

そう思う

強くそう思う

e. 現況調査表の分量をより少なくすべきである。

☐

☐

☐

☐

☐

f. 評価結果の分量をより少なくすべきである。

☐

☐

☐

☐

☐

g. 評価結果に詳細な結果を記載する必要がある。

☐

☐

☐

☐

☐

h. 評価結果に評価者による改善提案等のコメントを記載すべきである。

☐

☐

☐

☐

☐

問2 今後の現況分析のあり方について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

回答を入力

7/7 ページ

戻る

送信

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#)・[利用規約](#)・[プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート

平素より、当機構における評価事業に対し、ご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、当機構では、この度の国立大学法人及び大学共同利用機関法人の教育研究評価について、評価への対応状況や今後の評価のあり方に対するご意見を集約し、将来の評価システムの設計の参考にさせていただきたいと考えております。

つきましては、下記のとおりアンケート調査を実施しますので、ご多用のことと存じますが、何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

◆ご回答に当たってのお願い

1. 本アンケートでは、当機構が実施した「国立大学法人及び大学共同利用機関法人（以下「法人」という。）における教育研究の状況についての評価」のうち、学部・研究科、研究所、センターなど（以下「学部・研究科等」という。）を対象とする現況分析についてお伺いします。
2. 回答は現況調査表を提出した組織単位ごとをお願いいたします。「教育の現況分析」と「研究の現況分析」では質問内容が一部異なりますので、該当するアンケートにてご回答ください。
3. 本アンケートは、法人からの率直なご意見を伺い、今後の評価の改善に資することを目的に行います。そのため、回答は貴学部・研究科等においてそれぞれの現況調査表を中心にまとめられた方（学部長・研究科長、評価委員長等）をお願いいたします。
4. ご提出いただいた回答は、法人名・部署名や個人名が特定されないように処理いたします。

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

*必須

貴法人名 *

回答を入力

ご芳名 *

回答を入力

ご回答者の評価に関する役職の名称 *

(例：学部長、研究科長、評価委員長)

回答を入力

作成を担当した現況調査表の学部・研究科等名 *

回答を入力

貴学部・研究科等の学系 *

選択

1/7 ページ

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#)・[利用規約](#)・[プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

31

参考 31

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

本アンケートでは、以下の5つの内容に大別して、お伺いします。

- I 貴学部・研究科等における「研究に関する現況調査表」の作成作業について
- II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について
- III 評価による貴学部・研究科等の研究活動への効果・影響について
- IV 自己評価のための体制等について
- V 今後の評価のあり方について

2/7 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

I 貴学部・研究科等における「研究に関する現況調査表」の作成作業について

問 1 現況調査表の書式や作成方法について

(1) 現況調査表では、分析項目の下に記載項目を設けて、記載項目ごとの具体的な記載内容や根拠データ・資料を、「現況調査表ガイドライン」によって学別に示しました。

① このような方法により、貴学部・研究科等の個性的な取組を記載できたと思いますか。当てはまるものを選択してください。 *

- ☐ 全くそう思わない
- ☐ そう思わない
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ そう思う
- ☐ 強くそう思う

② このような方法により、以下のような問題を感じましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。 *

	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
a. 活動や成果をどのように記載すればよいか迷うことがあった。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 根拠となる資料・データの内容や様式をどのようにすればよいか迷うことがあった。	☐	☐	☐	☐	☐

(2) 現況調査表のページ数の上限は、現況調査表を作成する上で適切でしたか。当てはまるものを選択してください。 *

- ☐ 少なかった
- ☐ やや少なかった
- ☐ 適切だった
- ☐ やや多かった
- ☐ 多かった

問 2 研究業績説明書について

(1) 今回の研究業績説明書では、論文等ごとの提出ではなく、1つの「研究業績」に代表的な研究成果（論文等）を最大3つまで記載する方式をとり、「研究業績」を単位として提出していただきました。この方法で研究業績説明書を作成しづらい点がありましたか。当てはまるものを選択してください。 *

- ☐ 作成しづらい点があった
- ☐ 作成しづらい点はなかった

(2) 研究業績説明書では、各研究業績について「SS」あるいは「S」と判断した根拠を第三者による評価結果や客観的指標に基づいて記載していただきました。「学術的意義」及び／あるいは「社会、経済、文化的意義」を有すると判断した研究業績について、根拠を十分に記載できましたか。提出した業績の中で根拠を十分に記載できたと思う割合について、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。 *

	非常に少なかった（2割未満）	少なかった（2～4割）	ある程度あった（4～6割）	多かった（6～8割）	非常に多かった（8割以上）
a. 学術的意義	☐	☐	☐	☐	☐
b. 社会、経済、文化的意義	☐	☐	☐	☐	☐

(3) 研究業績説明書の作成に当たっては、「学術的意義」及び／あるいは「社会、経済、文化的意義」について、「SS」あるいは「S」に該当する研究業績を選定していただきました。「SS」、「S」、「S未満」の間の判断はしやすかったですか。提出した研究業績の中で確信をもって判定を下すことができた割合について、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。 *

	2割未満	2～4割	4～6割	6～8割	8割以上
a. 学術的意義	☐	☐	☐	☐	☐
b. 社会、経済、文化的意義	☐	☐	☐	☐	☐

区分	学術的意義	社会、経済、文化的意義
SS	当該分野において、 卓越した水準 ¹⁾ にある	社会、経済、文化への 貢献が卓越 ²⁾ している
S	当該分野において、 優秀な水準 ¹⁾ にある	社会、経済、文化への 貢献が優秀 ²⁾ である

注1)
 ・「卓越した水準 (SS)」とは、研究業績の独創性、新規性、発展性、有用性、他分野への貢献などの点において、客観的指標等から判断して、当該分野で学術的に最も優れた研究の一つであると認められ、当該分野ないし関連する分野において極めて重要な影響をもたらしている水準にあることを指します。
 ・「優秀な水準 (S)」とは、SS にまでは至らないが、当該分野で学術的に優れた研究の一つであると認められ、当該分野ないし関連する分野において重要な影響をもたらしている水準にあることを指します。

注2)
 ・「貢献が卓越 (SS)」とは、以下の領域において、客観的指標等から判断して、極めて重要な影響や極めて幅広い影響をもたらしている水準にあることを指します。
 ・「貢献が優秀 (S)」とは、SS にまでは至らないが、重要な影響や幅広い影響をもたらしている水準にあることを指します。

(4) 選定できる研究業績については、現況分析単位（学部・研究科等）ごとに専任教員数の原則20%を上限としていましたが、この数は適切なものでしたか。当てはまるものを選択してください。*

- ☐ 少なかった
- ☐ やや少なかった
- ☐ 適切だった
- ☐ やや多かった
- ☐ 多かった

(5) 今回の評価では、研究業績説明書における「代表的な研究成果・成果物」について、引用情報（論文の被引用数、論文パーセンタイル等）を法人及び評価者が同じ論文データベースに基づき参照可能としました。これにより、研究業績説明書は作成しやすくなりましたか。当てはまるものを選択してください。*

- ☐ そう思わない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ ややそう思う
- ☐ そう思う

② 大学ポートレートによるデータ分析集等の指標については、評価に活用する際の重要度に応じて重要指標（◆）、分析指標（◇）、参考指標（・）の3種類に区分しましたが、その設定は適切でしたか。当てはまるものを選択してください。*

- ☐ 全くそう思わない
- ☐ そう思わない
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ そう思う
- ☐ 強くそう思う

③ 「研究活動の状況」の【様式】研究活動状況に関する資料の表の項目分けは、業績を記載するのに十分網羅されていたか。当てはまるものを選択してください。*

- ☐ 不十分だった
- ☐ あまり十分ではなかった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ やや網羅されていた
- ☐ 十分網羅されていた

問3 現況調査表ガイドラインについて

現況調査表を作成するに当たり、学系別に「指針」として参考となるよう示した「現況調査表ガイドライン」の中で、「基本的な記載事項」並びに、「第3期中期目標期間に係る特記事項」として「キーワード」及び「具体的な記載例」を事前に公表しました。
https://www.niad.ac.jp/media/006/201907/genkyou_guideLines_201907.pdf

(1) 「現況調査表ガイドライン」における「基本的な記載事項」について
 基本的な記載事項の記述に当たっては、文章ではなく、根拠となる資料・データを提示する形を推奨しており、主として以下の3種類がありました。
 法人が作成するデータとして
 a. 学部・研究科等が独自に作成した資料・データ
 b. ガイドラインの様式に示された資料・データ
 c. 大学ポートレートによるデータ分析集等

① a～cについて、「現況調査表ガイドライン」において現況調査表作成に必要な資料・データがどの程度網羅されていたか、当てはまるものを選択してください。*

	不十分だった	あまり十分ではなかった	どちらとも言えない	やや網羅されていた	十分網羅されていた
a. 学部・研究科等が独自に作成した資料・データ	☐	☐	☐	☐	☐
b. ガイドラインの様式に示された資料・データ	☐	☐	☐	☐	☐
c. 大学ポートレートによるデータ分析集等	☐	☐	☐	☐	☐

(2) 「第3期中期目標期間に係る特記事項」として提示された「キーワード」及び「具体的な記載例」について、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。*

	全くそう思わない	そう思わない	どちらとも言えない	そう思う	強くそう思う
a. 記載する取組や成果のイメージがついた。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 例示の数や種類がより多ければよいと感じた。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 例示をより具体的にするとよいと感じた。	☐	☐	☐	☐	☐
d. 自学部・研究科等にふさわしい例示が少ないと感じた。	☐	☐	☐	☐	☐

問4 貴法人が提出した現況調査表について

(1) 提出した現況調査表（別添資料を含む）について、どのような感想をお持ちですか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。*

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	おおむね当てはまる	当てはまる
a. 学部・研究科等の目的を明確に記載することができた。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 研究活動による成果を具体的に説明することができた。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 研究活動の優れている点を具体的に説明することができた。	☐	☐	☐	☐	☐
d. 評価するのに必要な根拠・データを現況調査表等に記載することができた。	☐	☐	☐	☐	☐
e. 一般社会の人に理解しやすい現況調査表等を作成することができた。	☐	☐	☐	☐	☐
f. 全体的に見て、現況調査表等の完成度は満足できるものとなった。	☐	☐	☐	☐	☐

(2) ファイルの提出には、書面調査システムを用いることとしました。その使い勝手はいかがでしたか。当てはまるものを選択してください。*

- ☐ 悪かった
- ☐ やや悪かった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ おおむね良かった
- ☐ 良かった

問5 現況調査表や研究業績説明書の作成作業全般について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

回答を入力

3/7 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームで/スワートを送信してください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#)・[利用規約](#)・[プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

*必須

II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について

問1 確認事項の照会について

今回の評価では、評価者から法人に分析に当たっての確認事項の照会や資料提出の依頼を行いました。これらの方法について、適切だったと感じますか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。*

	適切でなかった	あまり適切でなかった	どちらとも言えない	おおむね適切であった	適切であった
a. 確認事項の照会や資料提出の依頼の方法（時期や量）	☐	☐	☐	☐	☐
b. 確認事項の照会や資料提出の依頼の内容	☐	☐	☐	☐	☐

問2 評価結果（現況分析結果）について

貴学部・研究科等の評価結果（現況分析結果）の内容について、全体的にどのように思いましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。*

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	おおむね当てはまる	当てはまる
a. 貴学部・研究科等の目的を踏まえていた。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 貴学部・研究科等の研究の実態を捉えていた。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 各分析項目の段階判定は納得のいくものであった。	☐	☐	☐	☐	☐
d. 分析項目の優れた点又は特色ある点として指摘された内容は納得のいくものであった。	☐	☐	☐	☐	☐
e. 全体的に、適正に評価された。	☐	☐	☐	☐	☐

問3 研究業績水準判定結果について

現況分析結果には、評価者が「SS」と判定した研究業績の件数及び一部の研究業績の名称を記載しました。その結果は納得のいくものでしたか。当てはまるものを選択してください。*

☐ 納得できなかった

☐ あまり納得できなかった

☐ どちらとも言えない

☐ おおむね納得できた

☐ 納得できた

問4 評価方法や評価結果について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

回答を入力

4/7 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでバーストを送信しないでください。
このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

III 評価による貴学部・研究科等の研究活動への効果・影響について

問1 評価の効果について

今回行った、研究の現況を自己分析して報告し、外部者の評価を受けるという一連の過程によって、貴学部・研究科等において以下の効果や影響が生じた（あるいは今後生じる）と思いますか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。*

当てはまらない
いい

あまり当ては
まらない

どちらとも言
えない

おおむね当て
はまる

当てはまる

a. 研究成果の
質や水準を重
視するようにな
った。

☐

☐

☐

☐

☐

b. 研究成果の
社会・経済・
文化的意義を
重視するよう
になった。

☐

☐

☐

☐

☐

c. 萌芽的な研
究や挑戦的な
研究を重視す
るようになっ
た。

☐

☐

☐

☐

☐

d. 研究活動の
今後の課題を
把握できた。

☐

☐

☐

☐

☐

e. 教職員の間
で研究活動に
関する組織
的な方向性が
共有された。

☐

☐

☐

☐

☐

当てはまらな
い

あまり当ては
まらない

どちらとも言
えない

おおむね当て
はまる

当てはまる

f. 学部・研究
科等内での意
思疎通が深ま
った。

☐

☐

☐

☐

☐

g. 若手教員の
研究活動が把
握され、活性
化できた。

☐

☐

☐

☐

☐

h. 社会に対し
法人の研究活
動を説明する
ことの重要さ
が浸透した。

☐

☐

☐

☐

☐

i. 学部・研究
科や学科・専
攻等の部局間
の競争意識が
高まった。

☐

☐

☐

☐

☐

j. 法人間の競
争意識が生ま
れた。

☐

☐

☐

☐

☐

k. 全体的に見
て、研究活動
の改善に寄与
した。

☐

☐

☐

☐

☐

問2 評価結果の活用予定等について

貴学部・研究科等において、今回の評価結果（現況分析結果）の具体的な活用の予定や、評価実施によるよい効果・影響、悪い効果・影響がありましたら、以下にご記入ください。

回答を入力

5/7 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでバーストを送信しないでください。
このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

IV 自己評価のための体制等について

問1 自己評価の体制・作業負担について

(1) 研究に関する現況調査表の作成（各分析項目・記載項目）を開始した時期をご回答ください。*

選択

(2) 今回の現況調査表の作成に費した作業負担は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。当てはまるものを選択してください。*

☐ 多かった

☐ やや多かった

☐ 適切であった

☐ やや少なかった

☐ 少なかった

(3) 今回の現況調査表の作成作業を効率的に実施できた要因、反対に作業負担が多くなった要因がありましたら、以下にご記入ください。

回答を入力

問2 実績報告書作成要領等について

現況調査表の作成方法は、「実績報告書作成要領」、「現況調査表ガイドライン」及び「第3期中期目標期間の教育研究の状況についての評価に関するQ & A」により理解できましたか。当てはまるものを選択してください。*

- ☐ 理解できなかった
- ☐ あまり理解できなかった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ おおむね理解できた
- ☐ 理解できた

6/7 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート

[Google にログイン](#)すると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

*必須

V 今後の評価のあり方について

問1 今後の評価の方向性について

今後の国立大学法人評価では、どのような評価のあり方を望みますか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

【現況分析】*

	全くそう 思わない	そう 思わない	どちらとも 言えない	そう 思う	強くそう 思う
a. 今後も各学系（分野）の大学教員を中心とする評価者が現況調査表を評価する方法で実施すべきである。	☐	☐	☐	☐	☐
b. 現況調査表に共通的に記載すべき内容をより詳細に定めるべきである。	☐	☐	☐	☐	☐
c. 共通的に設定したデータ・指標をより用いた評価とすべきである。	☐	☐	☐	☐	☐

【現況分析】*

	全くそう 思わない	そう 思わない	どちらとも 言えない	そう 思う	強くそう 思う
d. 学系（分野）ごとの記載項目や評価基準をより明確にすべきである。	☐	☐	☐	☐	☐
e. 現況調査表の分量をより少なくすべきである。	☐	☐	☐	☐	☐
f. 評価結果の分量をより少なくすべきである。	☐	☐	☐	☐	☐
g. 評価結果に詳細な結果を記載する必要がある。	☐	☐	☐	☐	☐
h. 評価結果に評価者による改善提案等のコメントを記載すべきである。	☐	☐	☐	☐	☐

【研究業績水準判定】*

	全くそう 思わない	そう 思わない	どちらとも 言えない	そう 思う	強くそう 思う
i. 今後も研究業績ごとに、同一分野の研究者が判定を行う方法（ピア・レビュー）で評価を実施すべきである。	☐	☐	☐	☐	☐
j. 提出する研究業績数の上限を増やすべきである。	☐	☐	☐	☐	☐
k. 提出した個々の研究業績について、その判定結果を法人に通知すべきである。	☐	☐	☐	☐	☐
l. 提出した個々の研究業績について、その判定結果を公表すべきである。	☐	☐	☐	☐	☐
m. 個々の研究業績の提出内容（研究業績説明書）についても、現況調査表とあわせて公表すべきである。	☐	☐	☐	☐	☐

問2 今後の現況分析（研究業績水準判定を含む）のあり方について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

回答を入力

戻る

送信

7/7 ページ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート 法人向け

(指定があるものを除きN=90)

I 貴法人における達成状況報告書の作成作業について

問1 達成状況報告書作成の際の自己評価について

(1) 達成状況報告書を作成した際、自己評価を行いにくい点がありましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	当てはまる	おおむね 当てはまる	どちらとも 言えない	あまり 当てはまらない	当てはまらない
a. 中期目標・計画の中に達成状況を自己評価しづらい点があった。	4 4.4%	13 14.4%	17 18.9%	47 52.2%	9 10.0%
b. 法人として重要な事項が中期目標・計画とは別に実施されており、現在の活動実態と適合しないところがあった。	2 2.2%	13 14.4%	18 20.0%	44 48.9%	13 14.4%
c. 自己評価において、中期計画の段階判定の基準が理解しづらかった。	2 2.2%	11 12.2%	18 20.0%	44 48.9%	15 16.7%

(2) 達成状況報告書の具体的な記載内容や根拠データ・資料について、以下のような問題を感じましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう思わない	全くそう思わない
a. 活動や成果の記載内容に迷うことがあった。	5 5.6%	30 33.3%	16 17.8%	36 40.0%	3 3.3%
b. どの程度詳しく記載すべきか迷うことがあった。	5 5.6%	50 55.6%	12 13.3%	22 24.4%	1 1.1%
c. 根拠となる資料・データの内容や記載方法に迷うことがあった。	4 4.4%	35 38.9%	21 23.3%	29 32.2%	1 1.1%

(3) 今回の評価では、「戦略性が高く意欲的な目標・計画」は、計画どおり実施できていなくとも、プロセスや内容等を考慮し、判定することとしていました。「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、自己評価を行いやすかったですか。当てはまるものを選択してください。
(「戦略性が高く意欲的な目標・計画」のない法人は「どちらとも言えない」を選択)

【「戦略性が高く意欲的な目標・計画」のない2法人を除く】

行いづらかった	しばしば行いづ らかった	どちらとも 言えない	おおむね 行いやすかった	行いやすかった
1 1.1%	16 18.2%	24 27.3%	43 48.9%	4 4.5%

(N=88)

問2 達成状況報告書の書式について

(1) 機構が設定した以下のような達成状況報告書の書式は、達成状況報告書を作成する上で適切なものでしたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	適切でなかった	あまり適切 でなかった	どちらとも 言えない	おおむね 適切であった	適切であった
a. 中期目標小項目ごとに法人が総括を記載する。	4 4.4%	12 13.3%	18 20.0%	44 48.9%	12 13.3%
b. 中期計画ごとに法人が実施状況を記載する。	0 0.0%	3 3.3%	9 10.0%	48 53.3%	30 33.3%
c. 中期計画ごとに小項目の達成に向けて得られた実績を法人が記載する。	6 6.7%	22 24.4%	15 16.7%	37 41.1%	10 11.1%
d. 中期計画ごとに2020年度、2021年度の実施予定を法人が記載する。	1 1.1%	6 6.7%	25 27.8%	46 51.1%	12 13.3%
e. 中期計画ごとに法人が自己判定を記載する。	1 1.1%	1 1.1%	11 12.2%	52 57.8%	25 27.8%
f. 優れた点・今後の課題等を法人が判断して記載する。	0 0.0%	4 4.4%	10 11.1%	54 60.0%	22 24.4%
g. 個性の伸長に向けた取組に関連する中期計画を法人が指定する。	2 2.2%	12 13.3%	25 27.8%	33 36.7%	18 20.0%

(2) 達成状況報告書のページ数の上限は、達成状況報告書を作成する上で適切でしたか。当てはまるものを選択してください。

少なかった	やや少なかった	適切であった	やや多かった	多かった
5 5.6%	8 8.9%	71 78.9%	6 6.7%	0 0.0%

問3 参考資料「データ分析集」の活用について

今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金に関する指標の推移などの定量的データを提供しました。

(1)「データ分析集」は達成状況報告書を作成する上で根拠となる資料・データとして参考になりましたか。当てはまるものを選択してください。

「データ分析集」を確認しなかった	全く参考にならなかった	ほとんど参考にならなかった	ある程度参考になった	多くの場合に参考になった	非常に参考になった
7	6	31	43	2	1
7.8%	6.7%	34.4%	47.8%	2.2%	1.1%

(2)「データ分析集」の他法人のデータや全法人の傾向等の情報は参考になりましたか。当てはまるものを選択してください。

他法人等の「データ分析集」を確認しなかった	全く参考にならなかった	ほとんど参考にならなかった	ある程度参考になった	多くの場合に参考になった	非常に参考になった
18	4	31	33	3	1
20.0%	4.4%	34.4%	36.7%	3.3%	1.1%

問4 貴法人から提出した達成状況報告書について

(1) 提出した達成状況報告書(別添資料を含む)について、どのような感想をお持ちですか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	おおむね当てはまる	当てはまる
a. 中期目標・計画の達成状況を明確に記載することができた。	0	2	15	61	12
	0.0%	2.2%	16.7%	67.8%	13.3%
b. 中期計画の実施により得られた成果を明確に示すことができた。	0	3	14	62	11
	0.0%	3.3%	15.6%	68.9%	12.2%
c. 評価に必要な根拠・データを達成状況報告書等に記載することができた。	0	5	19	55	11
	0.0%	5.6%	21.1%	61.1%	12.2%
d. 法人の教育研究活動の実態をわかりやすく示すことができた。	0	1	19	60	10
	0.0%	1.1%	21.1%	66.7%	11.1%
e. 優れた点や特色ある点をわかりやすく示すことができた。	0	3	15	60	12
	0.0%	3.3%	16.7%	66.7%	13.3%
f. 今後の課題をわかりやすく示すことができた。	3	6	34	43	4
	3.3%	6.7%	37.8%	47.8%	4.4%
g. 一般社会の人に理解しやすい達成状況報告書等を作成することができた。	1	14	36	36	3
	1.1%	15.6%	40.0%	40.0%	3.3%
h. 全体として、十分に自己評価を行うことができた。	0	1	14	62	13
	0.0%	1.1%	15.6%	68.9%	14.4%

(2) ファイルの提出には、書面調査システムを用いることとしました。その使い勝手はいかがでしたか。当てはまるものを選択してください。

悪かった	やや悪かった	どちらとも言えない	おおむね良かった	良かった
1	7	19	46	17
1.1%	7.8%	21.1%	51.1%	18.9%

問5 達成状況報告書の作成作業全般について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

※自由記述

Ⅱ 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について

問1 確認事項の照会・ヒアリングについて

(1) 今回の評価では、機構から法人に確認事項の照会や資料提出の依頼を行った上で、ヒアリングを行うという方法をとりました。この方法は適切と感じましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	適切でなかった	あまり適切でなかった	どちらとも言えない	おおむね適切であった	適切であった
a. 確認事項の照会や資料提出の依頼の方法(時期や量)	1 1.1%	3 3.3%	12 13.3%	52 57.8%	22 24.4%
b. 確認事項の照会や資料提出の依頼の内容	0 0.0%	5 5.6%	11 12.2%	53 58.9%	21 23.3%
c. ヒアリングの実施方法(時間や進行)	0 0.0%	7 7.8%	13 14.4%	49 54.4%	21 23.3%
d. ヒアリングにおける質疑応答の内容	0 0.0%	6 6.7%	19 21.1%	45 50.0%	20 22.2%

(2) 新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、ヒアリングをオンラインにより実施しました。その際、質疑応答や意思疎通に支障はありませんでしたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	支障があった	やや支障があった	どちらとも言えない	おおむね支障がなかった	支障がなかった
a. 技術面(オンライン会議ツール、通信回線、機材等の不具合や使いにくさにより、音声・映像の送受信に支障をきたすことがなかったか)	1 1.1%	13 14.4%	6 6.7%	35 38.9%	35 38.9%
b. コミュニケーション面(直接対面しないスタイルにより、発言や場の雰囲気等の察知等に支障をきたすことがなかったか)	0 0.0%	11 12.2%	7 7.8%	47 52.2%	25 27.8%

(3) 確認事項の照会やヒアリングについて、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

※自由記述

問3 評価結果(評価報告書)について

貴法人の評価結果の内容について、全体的にどのように思いましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	おおむね当てはまる	当てはまる
a. 貴法人の中期目標・計画の達成状況を反映していた。	2 2.2%	3 3.3%	14 15.6%	59 65.6%	12 13.3%
b. 貴法人において中期目標・計画により得られた教育研究上の成果を反映していた。	1 1.1%	5 5.6%	17 18.9%	54 60.0%	13 14.4%
c. 段階判定結果は納得のいくものであった。	4 4.4%	10 11.1%	18 20.0%	49 54.4%	9 10.0%
d. 判定結果の根拠は明確であった。	5 5.6%	9 10.0%	21 23.3%	46 51.1%	9 10.0%
e. 総じて、貴法人の中期目標・計画の達成状況が適正に評価された。	4 4.4%	2 2.2%	18 20.0%	54 60.0%	12 13.3%

問4 評価方法や評価結果について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

※自由記述

Ⅲ 評価による貴法人での効果・影響について

問1 評価の効果について

中期目標・計画に基づいて評価を行うことによって、貴法人において以下の効果や影響が生じた(あるいは今後に生じる)と思いますか。
以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	当てはまらない	あまり 当てはまらない	どちらとも 言えない	おおむね 当てはまる	当てはまる
a. 貴法人の中期目標・計画に基づく運営サイクルが 確立できた。	0 0.0%	6 6.7%	22 24.4%	54 60.0%	8 8.9%
b. 教育研究の課題が把握できた。	0 0.0%	3 3.3%	21 23.3%	55 61.1%	11 12.2%
c. 全体的にみて、教育活動が改善した。 (大学共同利用機関法人は「どちらとも言えない」を選択)	0 0.0%	4 4.4%	38 42.2%	46 51.1%	2 2.2%
d. 全体的にみて、研究活動が改善した。	1 1.1%	6 6.7%	40 44.4%	41 45.6%	2 2.2%
e. 貴法人の個性の伸長を促進できた。	0 0.0%	4 4.4%	39 43.3%	42 46.7%	5 5.6%
f. 教職員の間で法人の目標や方向性が共有された。	0 0.0%	10 11.1%	24 26.7%	52 57.8%	4 4.4%
g. 執行部と各部局等の意思疎通が深まった。	1 1.1%	13 14.4%	37 41.1%	31 34.4%	8 8.9%
h. 社会に対し貴法人の活動を説明することの重要性が 学内に浸透した。	0 0.0%	15 16.7%	38 42.2%	34 37.8%	3 3.3%
i. 社会への説明責任が果たされた。	0 0.0%	8 8.9%	26 28.9%	48 53.3%	8 8.9%
j. 法人間の競争意識が生まれた。	12 13.3%	18 20.0%	41 45.6%	17 18.9%	2 2.2%

問2 評価結果の活用予定等について

貴法人において、今回の中期目標の達成状況に関する評価結果の具体的な活用の予定や、評価実施による良い効果・影響、
悪い効果・影響がありましたら、以下にご記入ください。

※自由記述

Ⅳ 自己評価のための体制等について

問1 自己評価の体制・作業負担について

(1) 達成状況報告書の作成を開始した時期(各中期目標・計画の実施状況の記載を開始した時期)をご回答ください。

	数	割合
平成30年10月	6	6.67%
平成30年11月	0	0.00%
平成30年12月	2	2.22%
平成30年3月以前	0	0.00%
平成30年4月	0	0.00%
平成30年5月	0	0.00%
平成30年6月	1	1.11%
平成30年7月	4	4.44%
平成30年8月	8	8.89%
平成30年9月	5	5.56%
平成31年1月以降	64	71.11%
総計	90	100.00%

(2) 学部・研究科等から本部に提出された教育・研究の現況調査表(研究業績説明書を含む)について、本部において各現況調査表の記載内容の精査や
調整を行いましたか。当てはまるものを選択してください。

ほとんど 行わなかった	あまり 行わなかった	ある程度行った	おおむね 行った	十分に行った
0 0.0%	0 0.0%	9 10.0%	25 27.8%	56 62.2%

(3) 今回の達成状況報告書の作成に要した作業負担は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。
当てはまるものを選択してください。

多かった	やや多かった	適切であった	やや少なかった	少なかった
35 38.9%	36 40.0%	19 21.1%	0 0.0%	0 0.0%

- (4) 達成状況報告書の作成にかかる作業負担、あるいはその効率化の要因についてお聞きします。
- ① 作業を効率的に実施できた要因について、以下から当てはまるものを全て選択してください。(複数選択可)

	未選択	選択
a. 法人内に目標・計画の進捗管理のためのデータベースがあることで、効率的に作業できた。	53	37
	58.9%	41.1%
b. これまでの年度目標・計画の進捗状況を積み重ねることで、効率的に作業できた。	16	74
	17.8%	82.2%
c. 目標・計画ごとに責任者が指定されていることで、効率的に作業できた。	47	43
	52.2%	47.8%

- ② 上記以外に作業を効率的に実施できた要因、反対に作業負担が多くなった要因がありましたら、以下にご記入ください。

※自由記述

問2 機構による説明会及び研修会について

達成状況報告書の作成方法や評価全体の進め方については、機構が実施した説明会及び研修会により理解できましたか。当てはまるものを選択してください。

参加していない	理解できなかった	あまり理解できなかった	どちらとも言えない	おおむね理解できた	理解できた
0	1	4	15	63	7
0.0%	1.1%	4.4%	16.7%	70.0%	7.8%

問3 実績報告書作成要領等について

達成状況報告書の作成方法は、「実績報告書作成要領」及び「第3期中期目標期間の教育研究の状況についての評価に関するQ & A」により理解できましたか。当てはまるものを選択してください。

理解できなかった	あまり理解できなかった	どちらとも言えない	おおむね理解できた	理解できた
1	3	13	67	6
1.1%	3.3%	14.4%	74.4%	6.7%

V 今後の評価のあり方について

問1 今後の評価の方向性について

今後の国立大学法人評価では、評価実施の目的として、どのようなことを重視すべきだと思いますか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	全くそう思わない	そう思わない	どちらとも言えない	そう思う	強くそう思う
a. 法人の個性の伸長に、より寄与すべきである。	0	1	19	57	13
	0.0%	1.1%	21.1%	63.3%	14.4%
b. 中期目標・計画の達成状況の報告による社会への説明責任に、より焦点をおくべきである。	0	2	36	49	3
	0.0%	2.2%	40.0%	54.4%	3.3%
c. 法人内の管理運営サイクルの向上に、より寄与すべきである。	0	5	34	48	3
	0.0%	5.6%	37.8%	53.3%	3.3%
d. 教育・研究活動の質的向上に、より寄与すべきである。	0	2	14	62	12
	0.0%	2.2%	15.6%	68.9%	13.3%
e. 法人の教育研究の国際的水準や国際的競争力の向上に、より寄与すべきである。	0	8	36	42	4
	0.0%	8.9%	40.0%	46.7%	4.4%
f. 法人内における業務や組織の改廃の判断へ、より寄与すべきである。	1	13	47	27	2
	1.1%	14.4%	52.2%	30.0%	2.2%
g. 政府による運営費交付金の算定へ、より影響すべきである。	13	21	43	13	0
	14.4%	23.3%	47.8%	14.4%	0.0%
h. 法人への公的支出の意義の明確化に、より寄与すべきである。	6	8	50	26	0
	6.7%	8.9%	55.6%	28.9%	0.0%
i. 法人間の競争意識の向上に、より寄与すべきである。	19	29	33	9	0
	21.1%	32.2%	36.7%	10.0%	0.0%
j. 法人に対する他の評価との関係を含めて、評価内容を整理すべきである。	0	0	8	40	42
	0.0%	0.0%	8.9%	44.4%	46.7%

問2 今後の評価の方向性や評価方法のあり方について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

※自由記述

学部・研究科等の教育の「現況分析」に関する検証アンケート 法人向け

(指定があるものを除きN=615)

I 貴学部・研究科等における「教育に関する現況調査表」の作成作業について

問1 現況調査表の書式や作成方法について

- (1) 現況調査表では、分析項目の下に記載項目を設けて、記載項目ごとの具体的な記載内容や根拠データ・資料を、「現況調査表ガイドライン」によって学系別に示しました。
① このような方法により、貴学部・研究科等の個性的な取組を記載できたと思いますか。当てはまるものを選択してください。

全くそう思わない	そう思わない	どちらとも言えない	そう思う	強くそう思う
1	38	175	391	10
0.2%	6.2%	28.5%	63.6%	1.6%

- ② このような方法により、以下のような問題を感じましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
a. 活動や成果をどのように記載すればよいか迷うことがあった。	24	337	128	125	1
	3.9%	54.8%	20.8%	20.3%	0.2%
b. 根拠となる資料・データの内容や様式をどのようにすればよいか迷うことがあった。	37	330	125	122	1
	6.0%	53.7%	20.3%	19.8%	0.2%

- (2) 現況調査表のページ数の上限は、現況調査表を作成する上で適切でしたか。当てはまるものを選択してください。

少なかった	やや少なかった	適切だった	やや多かった	多かった
5	52	482	67	9
0.8%	8.5%	78.4%	10.9%	1.5%

問2 「現況調査表ガイドライン」について

現況調査表を作成するに当たり、学系別に「指針」として参考となるよう示した「現況調査表ガイドライン」の中で、「基本的な記載事項」並びに、「第3期中期目標期間に係る特記事項」として「キーワード」及び「具体的な記載例」を事前に公表しました。

- (1) 「現況調査表ガイドライン」における「基本的な記載事項」について
基本的な記載事項の記述に当たっては、文章ではなく、根拠となる資料・データを提示する形を推奨しており、主として以下の4種類がありました。
法人が作成するデータとして a. 学部・研究科等が独自に作成した資料・データ b. ガイドラインの様式に示された資料・データ
機構から提供されるデータとして c. 大学ポートレートによるデータ分析集等 d. 政府公表データ

- ① a～dについて、「現況調査表ガイドライン」において現況調査表作成に必要な資料・データがどの程度網羅されていたか、当てはまるものを選択してください。

	不十分だった	あまり十分ではなかった	どちらとも言えない	やや網羅されていた	十分網羅されていた
a. 学部・研究科等が独自に作成した資料・データ	4	35	186	266	124
	0.7%	5.7%	30.2%	43.3%	20.2%
b. ガイドラインの様式に示された資料・データ	2	34	205	266	108
	0.3%	5.5%	33.3%	43.3%	17.6%
c. 大学ポートレートによるデータ分析集等	7	40	241	229	98
	1.1%	6.5%	39.2%	37.2%	15.9%
d. 政府公表データ	6	43	310	160	96
	1.0%	7.0%	50.4%	26.0%	15.6%

- ② 大学ポートレートによるデータ分析集や政府公表データ等の指標については、評価に活用する際の重要度に応じて重要指標(◆)、分析指標(◇)、参考指標(●)の3種類に区分しましたが、その設定は適切でしたか。当てはまるものを選択してください。

全くそう思わない	そう思わない	どちらとも言えない	そう思う	強くそう思う
4	35	299	272	5
0.7%	5.7%	48.6%	44.2%	0.8%

- ③ 機構の大学機関別認証評価との関係を考慮し、領域6「教育課程と学習成果に関する基準」の記載内容との関係を整理し、資料・データの共通化を図りましたが、それにより今後の法人の自己評価にかかる負担は軽減すると思いますか。当てはまるものを選択してください。

全くそう思わない	そう思わない	どちらとも言えない	そう思う	強くそう思う
5	83	179	314	34
0.8%	13.5%	29.1%	51.1%	5.5%

(2)「第3期中期目標期間に係る特記事項」として提示された「キーワード」及び「具体的な記載例」について、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	全くそう思わない	そう思わない	どちらとも言えない	そう思う	強くそう思う
a. 記載する取組や成果のイメージがついた。	3	65	175	355	17
	0.5%	10.6%	28.5%	57.7%	2.8%
b. 例示の数や種類がより多ければよいと感じた。	0	82	207	281	45
	0.0%	13.3%	33.7%	45.7%	7.3%
c. 例示をより具体的にするとよいと感じた。	1	65	185	321	43
	0.2%	10.6%	30.1%	52.2%	7.0%
d. 自学部・研究科等にふさわしい例示が少ないと感じた。	2	105	332	165	11
	0.3%	17.1%	54.0%	26.8%	1.8%

問3 貴法人が提出した現況調査表について

(1) 提出した現況調査表(別添資料を含む)について、どのような感想をお持ちですか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	おおむね当てはまる	当てはまる
a. 学部・研究科等の目的を明確に記載することができた。	0	11	59	442	103
	0.0%	1.8%	9.6%	71.9%	16.7%
b. 教育活動による成果を具体的に説明することができた。	0	17	99	418	81
	0.0%	2.8%	16.1%	68.0%	13.2%
c. 教育活動の優れている点を具体的に説明することができた。	1	31	93	401	89
	0.2%	5.0%	15.1%	65.2%	14.5%
d. 評価するのに必要な根拠・データを現況調査表に記載することができた。	0	39	156	357	63
	0.0%	6.3%	25.4%	58.0%	10.2%
e. 一般社会の人に理解しやすい現況調査表等を作成することができた。	9	88	279	217	22
	1.5%	14.3%	45.4%	35.3%	3.6%
f. 全体的に見て、現況調査表等の完成度は満足できるものとなった。	5	38	159	362	51
	0.8%	6.2%	25.9%	58.9%	8.3%

(2) ファイルの提出には、書面調査システムを用いることとしました。その使い勝手はいかがでしたか。当てはまるものを選択してください。

	悪かった	やや悪かった	どちらとも言えない	おおむね良かった	良かった
	1	21	271	259	63
	0.2%	3.4%	44.1%	42.1%	10.2%

問4 現況調査表の作成作業全般について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

※自由記述

Ⅱ 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について

問1 確認事項の照会について

今回の評価では、評価者から法人に分析に当たっての確認事項の照会や資料提出の依頼を行いました。この方法は適切と感じましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	適切でなかった	あまり適切でなかった	どちらとも言えない	おおむね適切であった	適切であった
a. 確認事項の照会や資料提出の依頼の方法(時期や量)	1	51	242	264	57
	0.2%	8.3%	39.3%	42.9%	9.3%
b. 確認事項の照会や資料提出の依頼の内容	3	21	263	268	60
	0.5%	3.4%	42.8%	43.6%	9.8%

問2 評価結果(現況分析結果)について

貴学部・研究科等の評価結果(現況分析結果)の内容について、全体的にどのように思いましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	おおむね当てはまる	当てはまる
a. 貴学部・研究科等の目的を踏まえていた。	1	21	126	396	71
	0.2%	3.4%	20.5%	64.4%	11.5%
b. 貴学部・研究科等の教育の実態を捉えていた。	1	52	109	380	73
	0.2%	8.5%	17.7%	61.8%	11.9%
c. 各分析項目の段階判定は納得のいくものであった。	6	49	150	333	77
	1.0%	8.0%	24.4%	54.1%	12.5%
d. 分析項目の優れた点又は特色ある点として指摘された内容は納得のいくものであった。	4	29	134	358	90
	0.7%	4.7%	21.8%	58.2%	14.6%
e. 全体的に、適正に評価された。	4	44	118	364	85
	0.7%	7.2%	19.2%	59.2%	13.8%

問3 評価方法や評価結果について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

※自由記述

Ⅲ 評価による貴学部・研究科等の教育活動への効果・影響について

問1 評価の効果について

今回行った、教育の現況を自己分析して報告し、外部者の評価を受けるという一連の過程によって、貴学部・研究科等において以下の効果や影響が生じた（あるいは今後に生じる）と思いますか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	当てはまらない	あまり 当てはまらない	どちらとも 言えない	おおむね 当てはまる	当てはまる
a. 教育・学習の成果を重視するようになった。	3	33	202	329	48
	0.5%	5.4%	32.8%	53.5%	7.8%
b. 教育活動の質保証体制が進展した。	2	33	174	348	58
	0.3%	5.4%	28.3%	56.6%	9.4%
c. 教育内容の体系的性を意識するようになった。	3	33	195	337	47
	0.5%	5.4%	31.7%	54.8%	7.6%
d. 特色ある取組を促進した。	2	41	204	318	50
	0.3%	6.7%	33.2%	51.7%	8.1%
e. 学生のニーズを踏まえた教育を行うようになった。	1	49	226	311	28
	0.2%	8.0%	36.7%	50.6%	4.6%
f. 教育活動の今後の課題を把握できた。	1	31	181	342	60
	0.2%	5.0%	29.4%	55.6%	9.8%
g. 教職員の間で教育活動についての組織的な方向性が共有された。	11	82	268	244	10
	1.8%	13.3%	43.6%	39.7%	1.6%
h. 学部・研究科等内での意思疎通が深まった。	13	74	320	196	12
	2.1%	12.0%	52.0%	31.9%	2.0%
i. 社会に対し法人の教育活動を説明することの重要性が浸透した。	10	62	279	231	33
	1.6%	10.1%	45.4%	37.6%	5.4%
j. 学部・研究科や学科・専攻等の部局間の競争意識が高まった。	77	177	283	70	8
	12.5%	28.8%	46.0%	11.4%	1.3%
k. 法人間の競争意識が生まれた。	66	151	296	94	8
	10.7%	24.6%	48.1%	15.3%	1.3%
l. 全体的に見て、教育活動の改善に寄与した。	14	39	171	339	52
	2.3%	6.3%	27.8%	55.1%	8.5%

問2 評価結果の活用予定等について

貴学部・研究科等において、今回の評価結果（現況分析結果）の具体的な活用の予定や、評価実施によるよい効果・影響、悪い効果・影響がありましたら、以下にご記入ください。

※自由記述

Ⅳ 自己評価のための体制等について

問1 自己評価の体制・作業負担について

(1) 教育に関する現況調査表の作成（各分析項目・記載項目）を開始した時期をご回答ください。

	数	割合
平成30年6月以前	46	7.48%
平成30年7月	34	5.53%
平成30年8月	54	8.78%
平成30年9月	33	5.37%
平成30年10月	78	12.68%
平成30年11月	8	1.30%
平成30年12月	15	2.44%
平成31年1月以降	347	56.42%

(2) 今回の現況調査表の作成に要した作業負担は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。当てはまるものを選択してください。

多かった	やや多かった	適切であった	やや少なかった	少なかった
172	289	153	1	0
28.0%	47.0%	24.9%	0.2%	0.0%

(3) 今回の現況調査表の作成作業を効率的に実施できた要因、反対に作業負担が多くなった要因がありましたら、以下にご記入ください。

※自由記述

問2 実績報告書作成要領等について

現況調査表の作成方法は、「実績報告書作成要領」、「現況調査表ガイドライン」及び「第3期中期目標期間の教育研究の状況についての評価に関するQ&A」により理解できましたか。当てはまるものを選択してください。

理解できなかった	あまり理解 できなかった	どちらとも 言えない	おおむね 理解できた	理解できた
3	66	147	366	33
0.5%	10.7%	23.9%	59.5%	5.4%

V 今後の評価のあり方について

問1 今後の評価の方向性について

今後の国立大学法人評価では、どのような評価のあり方を望みますか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	全くそう思わない	そう思わない	どちらとも言えない	そう思う	強くそう思う
a. 今後も各学系(分野)の大学教員を中心とする評価者が現況調査表を評価する方法で実施すべきである。	7	30	159	383	36
	1.1%	4.9%	25.9%	62.3%	5.9%
b. 現況調査表に共通的に記載すべき内容をより詳細に定めるべきである。	10	123	254	203	25
	1.6%	20.0%	41.3%	33.0%	4.1%
c. 共通的に設定したデータ・指標をより用いた評価とすべきである。	8	122	266	205	14
	1.3%	19.8%	43.3%	33.3%	2.3%
d. 学系(分野)ごとの記載項目や評価基準をより明確にすべきである。	6	51	193	321	44
	1.0%	8.3%	31.4%	52.2%	7.2%
e. 現況調査表の分量をより少なくすべきである。	1	60	235	240	79
	0.2%	9.8%	38.2%	39.0%	12.8%
f. 評価結果の分量をより少なくすべきである。	11	154	318	99	33
	1.8%	25.0%	51.7%	16.1%	5.4%
g. 評価結果に詳細な結果を記載する必要がある。	11	88	279	211	26
	1.8%	14.3%	45.4%	34.3%	4.2%
h. 評価結果に評価者による改善提案等のコメントを記載すべきである。	10	69	242	262	32
	1.6%	11.2%	39.3%	42.6%	5.2%

問2 今後の現況分析のあり方について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

※自由記述

学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート 法人向け

(指定があるものを除きN=459)

I 貴学部・研究科等における「研究に関する現況調査表」の作成作業について

問1 現況調査表の書式や作成方法について

(1) 現況調査表では、分析項目の下に記載項目を設けて、記載項目ごとの具体的な記載内容や根拠データ・資料を、「現況調査表ガイドライン」によって学系別に示しました。

① このような方法により、貴学部・研究科等の個性的な取組を記載できたと思いますか。当てはまるものを選択してください。

全くそう思わない	そう思わない	どちらとも言えない	そう思う	強くそう思う
1	23	138	284	13
0.2%	5.0%	30.1%	61.9%	2.8%

② このような方法により、以下のような問題を感じましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
a. 活動や成果をどのように記載すればよいかわるうことがあった。	17	261	87	93	1
	3.7%	56.9%	19.0%	20.3%	0.2%
b. 根拠となる資料・データの内容や様式をどのようにすればよいかわるうことがあった。	25	254	88	91	1
	5.4%	55.3%	19.2%	19.8%	0.2%

(2) 現況調査表のページ数の上限は、現況調査表を作成する上で適切でしたか。当てはまるものを選択してください。

少なかった	やや少なかった	適切だった	やや多かった	多かった
10	53	354	39	3
2.2%	11.5%	77.1%	8.5%	0.7%

問2 研究業績説明書について

(1) 今回の研究業績説明書では、論文等ごとの提出ではなく、1つの「研究業績」に代表的な研究成果(論文等)を最大3つまで記載する方式を取り、「研究業績」を単位として提出していただきました。この方法で研究業績説明書を作成しづらい点がありましたか。当てはまるものを選択してください。

作成しづらい点があった	作成しづらい点はありません
171	288
37.3%	62.7%

(2) 研究業績説明書では、各研究業績について「SS」あるいは「S」と判断した根拠を第三者による評価結果や客観的指標に基づいて記載していただきました。「学術的意義」及び／あるいは「社会、経済、文化的意義」を有すると判断した研究業績について、根拠を十分に記載できましたか。

提出した業績の中で根拠を十分に記載できたと思う割合について、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	非常に少なかった (2割未満)	少なかった (2～4割)	ある程度あった (4～6割)	多かった (6～8割)	非常に多かった (8割以上)
a. 学術的意義	0	15	191	160	93
	0.0%	3.3%	41.6%	34.9%	20.3%
b. 社会、経済、文化的意義	7	61	227	120	44
	1.5%	13.3%	49.5%	26.1%	9.6%

(3) 研究業績説明書の作成に当たっては、「学術的意義」及び／あるいは「社会、経済、文化的意義」について、「SS」あるいは「S」に該当する研究業績を選定していただきました。「SS」、「S」、「S未満」の間の判断はしやすかったですか。提出した研究業績の中で確信をもって判定を下すことができた割合について、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	2割未満	2～4割	4～6割	6～8割	8割以上
a. 学術的意義	5	43	129	165	117
	1.1%	9.4%	28.1%	35.9%	25.5%
b. 社会、経済、文化的意義	21	78	163	123	74
	4.6%	17.0%	35.5%	26.8%	16.1%

(4) 選定できる研究業績については、現況分析単位(学部・研究科等)ごとに専任教員数の原則20%を上限としていましたが、この数は適切なものでしたか。当てはまるものを選択してください。

少なかった	やや少なかった	適切だった	やや多かった	多かった
21	96	319	21	2
4.6%	20.9%	69.5%	4.6%	0.4%

(5) 今回の評価では、研究業績説明書における「代表的な研究成果・成果物」について、引用情報(論文の被引用数、論文パーセンタイル等)を法人及び評価者が同じ論文データベースに基づき参照可能としました。これにより、研究業績説明書は作成しやすくなりましたか。当てはまるものを選択してください。

そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う
21	75	180	144	39
4.6%	16.3%	39.2%	31.4%	8.5%

問3 現況調査表ガイドラインについて

現況調査表を作成するに当たり、学系別に“指針”として参考となるよう示した「現況調査表ガイドライン」の中で、「基本的な記載事項」並びに、「第3期中期目標期間に係る特記事項」として「キーワード」及び「具体的な記載例」を事前に公表しました。

- (1) 「現況調査表ガイドライン」における「基本的な記載事項」について
基本的な記載事項の記述に当たっては、文章ではなく、根拠となる資料・データを提示する形を推奨しており、主として以下の3種類がありました。
法人が作成するデータとして a. 学部・研究科等が独自に作成した資料・データ b. ガイドラインの様式に示された資料・データ
機構から提供されるデータとして c. 大学ポートレートによるデータ分析集等

① a～cについて、「現況調査表ガイドライン」において現況調査表作成に必要な資料・データがどの程度網羅されていたか、当てはまるものを選択してください。

	不十分だった	あまり十分ではなかった	どちらとも言えない	やや網羅されていた	十分網羅されていた
a. 学部・研究科等が独自に作成した資料・データ	3	20	147	208	81
	0.7%	4.4%	32.0%	45.3%	17.6%
b. ガイドラインの様式に示された資料・データ	2	26	189	184	58
	0.4%	5.7%	41.2%	40.1%	12.6%
c. 大学ポートレートによるデータ分析集等	8	36	200	167	48
	1.7%	7.8%	43.6%	36.4%	10.5%

② 大学ポートレートによるデータ分析集等の指標については、評価に活用する際の重要度に応じて重要指標(◆)、分析指標(◇)、参考指標(○)の3種類に区分しましたが、その設定は適切でしたか。当てはまるものを選択してください。

全くそう思わない	そう思わない	どちらとも言えない	そう思う	強くそう思う
2	28	244	183	2
0.4%	6.1%	53.2%	39.9%	0.4%

③ 「研究活動の状況」の【様式】研究活動状況に関する資料の表の項目分けは、業績を記載するのに十分網羅されていましたか。当てはまるものを選択してください。

不十分だった	あまり十分ではなかった	どちらとも言えない	やや網羅されていた	十分網羅されていた
6	38	173	193	49
1.3%	8.3%	37.7%	42.0%	10.7%

(2) 「第3期中期目標期間に係る特記事項」として提示された「キーワード」及び「具体的な記載例」について、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	全くそう思わない	そう思わない	どちらとも言えない	そう思う	強くそう思う
a. 記載する取組や成果のイメージがついた。	3	39	145	266	6
	0.7%	8.5%	31.6%	58.0%	1.3%
b. 例示の数や種類がより多ければよいと感じた。	1	54	163	206	35
	0.2%	11.8%	35.5%	44.9%	7.6%
c. 例示をより具体的にするとよいと感じた。	0	48	145	238	28
	0.0%	10.5%	31.6%	51.9%	6.1%
d. 自学部・研究科等にふさわしい例示が少ないと感じた。	2	81	244	122	10
	0.4%	17.6%	53.2%	26.6%	2.2%

問4 貴法人が提出した現況調査表について

(1) 提出した現況調査表(別添資料を含む)について、どのような感想をお持ちですか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	おおむね当てはまる	当てはまる
a. 学部・研究科等の目的を明確に記載することができた。	2	14	62	303	78
	0.4%	3.1%	13.5%	66.0%	17.0%
b. 研究活動による成果を具体的に説明することができた。	2	12	75	298	72
	0.4%	2.6%	16.3%	64.9%	15.7%
c. 研究活動の優れている点を具体的に説明することができた。	1	19	72	291	76
	0.2%	4.1%	15.7%	63.4%	16.6%
d. 評価するのに必要な根拠・データを現況調査表等に記載することができた。	2	17	115	269	56
	0.4%	3.7%	25.1%	58.6%	12.2%
e. 一般社会の人に理解しやすい現況調査表等を作成することができた。	9	58	201	169	22
	2.0%	12.6%	43.8%	36.8%	4.8%
f. 全体的に見て、現況調査表等の完成度は満足できるものとなった。	2	24	116	270	47
	0.4%	5.2%	25.3%	58.8%	10.2%

(2) ファイルの提出には、書面調査システムを用いることとしました。その使い勝手はいかがでしたか。当てはまるものを選択してください。

悪かった	やや悪かった	どちらとも言えない	おおむね良かった	良かった
2	18	209	180	50
0.4%	3.9%	45.5%	39.2%	10.9%

問5 現況調査表や研究業績説明書の作成作業全般について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

※自由記述

Ⅱ 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について

問1 確認事項の照会について

今回の評価では、評価者から法人に分析に当たっての確認事項の照会や資料提出の依頼を行いました。これらの方法について、適切だったと感じますか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	適切でなかった	あまり適切でなかった	どちらとも言えない	おおむね適切であった	適切であった
a. 確認事項の照会や資料提出の依頼の方法(時期や量)	0	34	207	190	28
	0.0%	7.4%	45.1%	41.4%	6.1%
b. 確認事項の照会や資料提出の依頼の内容	1	21	226	173	38
	0.2%	4.6%	49.2%	37.7%	8.3%

問2 評価結果(現況分析結果)について

貴学部・研究科等の評価結果(現況分析結果)の内容について、全体的にどのように思いましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	おおむね当てはまる	当てはまる
a. 貴学部・研究科等の目的を踏まえていた。	4	19	93	283	60
	0.9%	4.1%	20.3%	61.7%	13.1%
b. 貴学部・研究科等の研究の実態を捉えていた。	7	26	106	262	58
	1.5%	5.7%	23.1%	57.1%	12.6%
c. 各分析項目の段階判定は納得のいくものであった。	14	26	110	244	65
	3.1%	5.7%	24.0%	53.2%	14.2%
d. 分析項目の優れた点又は特色ある点として指摘された内容は納得のいくものであった。	6	16	112	259	66
	1.3%	3.5%	24.4%	56.4%	14.4%
e. 全体的に、適正に評価された。	13	21	101	259	65
	2.8%	4.6%	22.0%	56.4%	14.2%

問3 研究業績水準判定結果について

現況分析結果には、評価者が「SS」と判定した研究業績の件数及び一部の研究業績の名称を記載しました。その結果は納得のいくものでしたか。当てはまるものを選択してください。

納得できなかった	あまり納得できなかった	どちらとも言えない	おおむね納得できた	納得できた
9	32	154	210	54
2.0%	7.0%	33.6%	45.8%	11.8%

問4 評価方法や評価結果について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

※自由記述

Ⅲ 評価による貴学部・研究科等の研究活動への効果・影響について

問1 評価の効果について

今回行った、研究の現況を自己分析して報告し、外部者の評価を受けるという一連の過程によって、貴学部・研究科等において以下の効果や影響が生じた(あるいは今後生じる)と思いますか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	おおむね当てはまる	当てはまる
a. 研究成果の質や水準を重視するようになった。	6	29	132	250	42
	1.3%	6.3%	28.8%	54.5%	9.2%
b. 研究成果の社会・経済・文化的意義を重視するようになった。	4	41	159	223	32
	0.9%	8.9%	34.6%	48.6%	7.0%
c. 萌芽的な研究や挑戦的な研究を重視するようになった。	13	85	209	137	15
	2.8%	18.5%	45.5%	29.8%	3.3%
d. 研究活動の今後の課題を把握できた。	8	46	160	213	32
	1.7%	10.0%	34.9%	46.4%	7.0%
e. 教職員の間で研究活動についての組織的な方向性が共有された。	15	64	207	158	15
	3.3%	13.9%	45.1%	34.4%	3.3%
f. 学部・研究科等内での意思疎通が深まった。	16	76	232	121	14
	3.5%	16.6%	50.5%	26.4%	3.1%
g. 若手教員の研究活動が把握され、活性化できた。	15	73	215	139	17
	3.3%	15.9%	46.8%	30.3%	3.7%
h. 社会に対し法人の研究活動を説明することの重要性が浸透した。	11	49	194	180	25
	2.4%	10.7%	42.3%	39.2%	5.4%
i. 学部・研究科や学科・専攻等の部局間の競争意識が高まった。	46	116	205	84	8
	10.0%	25.3%	44.7%	18.3%	1.7%
j. 法人間の競争意識が生まれた。	39	95	235	82	8
	8.5%	20.7%	51.2%	17.9%	1.7%
k. 全体的に見て、研究活動の改善に寄与した。	17	39	175	205	23
	3.7%	8.5%	38.1%	44.7%	5.0%

問2 評価結果の活用予定等について

貴学部・研究科等において、今回の評価結果(現況分析結果)の具体的な活用の予定や、評価実施によるよい効果・影響、悪い効果・影響がありましたら、以下にご記入ください。

※自由記述

Ⅳ 自己評価のための体制等について

問1 自己評価の体制・作業負担について

(1) 研究に関する現況調査表の作成(各分析項目・記載項目)を開始した時期をご回答ください。

	数	割合
平成30年6月以前	38	8.28%
平成30年7月	18	3.92%
平成30年8月	36	7.84%
平成30年9月	22	4.79%
平成30年10月	49	10.68%
平成30年11月	9	1.96%
平成30年12月	13	2.83%
平成31年1月以降	274	59.69%

(2) 今回の現況調査表の作成に要した作業負担は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。当てはまるものを選択してください。

多かった	やや多かった	適切であった	やや少なかった	少なかった
132	196	130	0	1
28.8%	42.7%	28.3%	0.0%	0.2%

(3) 今回の現況調査表の作成作業を効率的に実施できた要因、反対に作業負担が多くなった要因がありましたら、以下にご記入ください。

※自由記述

問2 実績報告書作成要領等について

現況調査表の作成方法は、「実績報告書作成要領」、「現況調査表ガイドライン」及び「第3期中期目標期間の教育研究の状況についての評価に関するQ&A」により理解できましたか。当てはまるものを選択してください。

理解できなかった	あまり理解できなかった	どちらとも言えない	おおむね理解できた	理解できた
1	49	136	245	28
0.2%	10.7%	29.6%	53.4%	6.1%

Ⅴ 今後の評価のあり方について

問1 今後の評価の方向性について

今後の国立大学法人評価では、どのような評価のあり方を望みますか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

【現況分析】	全くそう思わない	そう思わない	どちらとも言えない	そう思う	強くそう思う
a. 今後も各学系(分野)の大学教員を中心とする評価者が現況調査表を評価する方法で実施すべきである。	4 0.9%	17 3.7%	111 24.2%	302 65.8%	25 5.4%
b. 現況調査表に共通的に記載すべき内容をより詳細に定めるべきである。	9 2.0%	90 19.6%	206 44.9%	144 31.4%	10 2.2%
c. 共通的に設定したデータ・指標をより用いた評価とすべきである。	12 2.6%	90 19.6%	203 44.2%	140 30.5%	14 3.1%
d. 学系(分野)ごとの記載項目や評価基準をより明確にすべきである。	5 1.1%	49 10.7%	151 32.9%	223 48.6%	31 6.8%
e. 現況調査表の分量をより少なくすべきである。	3 0.7%	55 12.0%	198 43.1%	159 34.6%	44 9.6%
f. 評価結果の分量をより少なくすべきである。	14 3.1%	141 30.7%	211 46.0%	77 16.8%	16 3.5%
g. 評価結果に詳細な結果を記載する必要がある。	4 0.9%	60 13.1%	208 45.3%	159 34.6%	28 6.1%
h. 評価結果に評価者による改善提案等のコメントを記載すべきである。	7 1.5%	58 12.6%	175 38.1%	190 41.4%	29 6.3%

【研究業績水準判定】	全くそう思わない	そう思わない	どちらとも言えない	そう思う	強くそう思う
i. 今後も研究業績ごとに、同一分野の研究者が判定を行う方法(ピア・レビュー)で評価を実施すべきである。	2 0.4%	15 3.3%	95 20.7%	310 67.5%	37 8.1%
j. 提出する研究業績数の上限を増やすべきである。	9 2.0%	115 25.1%	228 49.7%	94 20.5%	13 2.8%
k. 提出した個々の研究業績について、その判定結果を法人に通知すべきである。	6 1.3%	43 9.4%	147 32.0%	215 46.8%	48 10.5%
l. 提出した個々の研究業績について、その判定結果を公表すべきである。	19 4.1%	114 24.8%	219 47.7%	89 19.4%	18 3.9%
m. 個々の研究業績の提出内容(研究業績説明書)についても、現況調査表とあわせて公表すべきである。	12 2.6%	108 23.5%	233 50.8%	90 19.6%	16 3.5%

問2 今後の現況分析(研究業績水準判定を含む)のあり方について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

※自由記述

教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート 評価者向け

(指定があるものを除きN=142)

I 達成状況報告書について

(1) 法人から提出された達成状況報告書の記載内容についてお聞きます。

① 主担当・副担当をした法人から提出された達成状況報告書(別添資料を含む)について、以下に該当する記載はどの程度ありましたか。以下の項目ごとに当てはまる割合を選択してください。

	2割未満	2～4割	4～6割	6～8割	8割以上
a. 中期目標・計画の達成状況が明確に記されていた。	1 0.7%	3 2.1%	12 8.5%	54 38.0%	72 50.7%
b. 計画実施により得られた成果が明確に示されていた。	0 0.0%	5 3.5%	25 17.6%	63 44.4%	49 34.5%
c. 評価するのに必要な根拠・データが報告書内に記されていた。	0 0.0%	10 7.0%	29 20.4%	68 47.9%	35 24.6%
d. 法人の教育研究活動の実態がわかるものであった。	1 0.7%	3 2.1%	24 16.9%	60 42.3%	54 38.0%
e. 優れた点や特色ある点がわかるものであった。	2 1.4%	5 3.5%	14 9.9%	60 42.3%	61 43.0%
f. 改善を要する点がわかるものであった。	9 6.3%	16 11.3%	40 28.2%	50 35.2%	27 19.0%
g. 一般社会に理解しやすい報告書等であった。	2 1.4%	18 12.7%	48 33.8%	49 34.5%	25 17.6%
h. 全体的に見て、達成状況報告書等は評価を行うのに十分に書かれていた。	1 0.7%	4 2.8%	12 8.5%	70 49.3%	55 38.7%

② 法人から提出された達成状況報告書の達成状況の具体的な記載内容や根拠データ・資料について、以下のような問題を感じましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	強くそう思う	そう思う	どちらとも いえない	そう思わない	全くそう 思わない
a. 活動や成果の記載内容が法人ごとに多様であったために、評価がしづかった。	5 5.0%	36 35.6%	20 19.8%	35 34.7%	5 5.0%
b. 記載の分量が法人ごとに多様であったために、評価がしづかった。	1 1.0%	24 23.8%	21 20.8%	50 49.5%	5 5.0%
c. 根拠データ・資料の内容や記載方法が法人ごとに多様であったため、解釈しづかった。	4 4.0%	39 38.6%	19 18.8%	33 32.7%	6 5.9%

(N=101)

(N=101)

(N=101)

(2) 機構が設定した達成状況報告書の書式についてお聞きます。

① 機構が設定した以下のような達成状況報告書の書式は、評価作業を実施する上で適切なものでしたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	適切でなかった	あまり適切 でなかった	どちらとも いえない	おおむね 適切だった	適切だった
a. 中期目標小項目ごとに法人が総括を記載する。	1 0.7%	1 0.7%	13 9.2%	81 57.0%	46 32.4%
b. 中期計画ごとに法人が実施状況を記載する。	0 0.0%	1 0.7%	8 5.6%	79 55.6%	54 38.0%
c. 中期計画ごとに小項目の達成に向けて得られた実績を法人が記載する。	0 0.0%	2 1.4%	15 10.6%	84 59.2%	41 28.9%
d. 中期計画ごとに2020年度、2021年度の実施予定を法人が記載する。	0 0.0%	9 6.3%	26 18.3%	70 49.3%	37 26.1%
e. 中期計画ごとに法人が段階判定を記載する。	1 0.7%	10 7.0%	25 17.6%	68 47.9%	38 26.8%
f. 優れた点・今後の課題等を法人が判断して記載する。	3 2.1%	7 4.9%	22 15.5%	73 51.4%	37 26.1%
g. 個性の伸長に向けた取組に関連する中期計画を法人が指定する。	1 0.7%	6 4.2%	33 23.2%	69 48.6%	33 23.2%

② 達成状況報告書のページ数(分量)は、評価を実施する上で適切でしたか。当てはまるものを選択してください。

	少なかった	やや少なかった	適切だった	やや多かった	多かった
	0 0.0%	4 2.8%	86 60.6%	43 30.3%	9 6.3%

(指定があるものを除きN=142)

II 評価方法・結果について

(1)「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の評価について

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の評価に当たっては、計画どおり実施できていない場合においても、教育研究の質の向上や高い研究水準の実現が確認できる場合には、プロセスや内容等を考慮し、判定することになっていました。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に該当する中期計画の評価を問題なくできましたか。当てはまるものを選択してください。

評価 しづかった	やや評価 しづかった	どちらとも いえない	おおむね評価 しやすかった	評価 しやすかった
6	32	13	48	2
5.9%	31.7%	12.9%	47.5%	2.0%

(N=101)

(2)評価の際に以下の結果及び参考資料はどの程度参考になりましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	参考に ならなかった	あまり参考に ならなかった	どちらとも 言えない	おおむね 参考になった	参考になった
a. 現況分析結果	1	13	19	84	25
	0.7%	9.2%	13.4%	59.2%	17.6%
b. 研究業績水準判定結果	1	12	26	76	27
	0.7%	8.5%	18.3%	53.5%	19.0%
c. 機関別認証評価結果	3	11	38	76	14
	2.1%	7.7%	26.8%	53.5%	9.9%
d. データ分析集	2	12	31	76	21
	1.4%	8.5%	21.8%	53.5%	14.8%

(3)書面調査について

書面調査段階において、評価判断(段階判定や判断理由の作成)をどの程度確信をもって行うことができましたか。当てはまる割合を選択してください。

2割未満	2～4割	4～6割	6～8割	8割以上
0	2	19	62	18
0.0%	2.0%	18.8%	61.4%	17.8%

(N=101)

(4)ヒアリング及び達成状況判定会議について

① 今回の評価では、法人にヒアリングに向けての確認事項の照会や資料提出の依頼を行った上で、ヒアリングを行うという方法をとりました。この方法は、評価する際に適切と感じましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	適切でなかった	あまり適切 でなかった	どちらとも いえない	おおむね 適切だった	適切だった
a. 法人へのヒアリングに向けての確認事項の照会や 資料提出の依頼	1	1	2	83	55
	0.7%	0.7%	1.4%	58.5%	38.7%
b. ヒアリングにおける質疑応答による調査	1	4	12	87	38
	0.7%	2.8%	8.5%	61.3%	26.8%

② 新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、ヒアリング及び達成状況判定会議をオンラインにより開催しました。その際、質疑応答や意思疎通に支障はありませんでしたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	支障があった	やや支障 があった	どちらとも いえない	おおむね 支障がなかった	支障がなかった
a. 技術面(オンライン会議ツール、通信回線、機材等の不具合や使いにくさにより、音声・映像の送受信に支障をきたすことがなかったか)	2	15	7	65	53
	1.4%	10.6%	4.9%	45.8%	37.3%
b. コミュニケーション面(直接対面しないスタイルにより、発言や場の雰囲気の察知等に支障をきたすことがなかったか)	6	38	18	50	30
	4.2%	26.8%	12.7%	35.2%	21.1%

(5)中期目標小項目の段階判定の基準は以下のようなものでした(下表参照)。これらの基準は判断する際に明確でしたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

明確でなかった	あまり明確 でなかった	どちらとも いえない	おおむね 明確であった	明確であった
4	11	15	96	16
2.8%	7.7%	10.6%	67.6%	11.3%

(6)書面調査の後に、2回の達成状況判定会議やヒアリングを行い、評価結果を決定しました。

その判定や記載内容は評価者として納得のいくものとなりましたか。当てはまる割合を選択してください。

2割未満	2～4割	4～6割	6～8割	8割以上
0	0	6	40	96
0.0%	0.0%	4.2%	28.2%	67.6%

(指定があるものを除きN=142)

Ⅲ 評価作業と事前研修について

(1) 書面調査シートについて

評価作業はマイクロソフト社のExcelによる「書面調査シート」で行っていただきました。その使い勝手はいかがでしたか。当てはまるものを選択してください。

悪かった	やや悪かった	どちらでもない	おおむね良かった	良かった
1	11	15	58	16
1.0%	10.9%	14.9%	57.4%	15.8%

(N=101)

(2) 書面調査システムによる作業について

ファイルの受け渡しを、書面調査システムを用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。当てはまるものを選択してください。

悪かった	やや悪かった	どちらでもない	おおむね良かった	良かった
0	10	13	53	25
0.0%	9.9%	12.9%	52.5%	24.8%

(N=101)

(3) 作業時間等について

a. 主担当の方にお伺いします。

主担当の法人の書面調査等にかかった時間として、おおむね〇時間(半角数字)

	数	割合
～10時間	16	21.1%
11時間～20時間	28	36.8%
21時間～30時間	13	17.1%
31時間～40時間	3	3.9%
41時間～50時間	3	3.9%
51時間～60時間	4	5.3%
61時間～70時間	0	0.0%
71時間～80時間	5	6.6%
81時間～90時間	0	0.0%
91時間～100時間	2	2.6%
101時間～	2	2.6%
総計	76	100.0%

(N=76)

副担当の法人の書面調査等にかかった全体の時間として、おおむね〇時間(半角数字)

	数	割合
～10時間	44	57.9%
11時間～20時間	16	21.1%
21時間～30時間	5	6.6%
31時間～40時間	5	6.6%
41時間～50時間	3	3.9%
51時間～60時間	1	1.3%
61時間～70時間	0	0.0%
71時間～80時間	1	1.3%
81時間～90時間	0	0.0%
91時間～100時間	1	1.3%
101時間～	0	0.0%
総計	76	100.0%

(N=76)

(指定があるものを除きN=142)

b. 副担当(主担当法人がない方)にお伺いします。

チーム担当の法人の書面調査等にかかった時間として、おおむね〇時間(半角数字)

	数	割合
～10時間	25	44.6%
11時間～20時間	16	28.6%
21時間～30時間	7	12.5%
31時間～40時間	2	3.6%
41時間～50時間	2	3.6%
51時間～60時間	1	1.8%
61時間～70時間	0	0.0%
71時間～80時間	1	1.8%
81時間～90時間	1	1.8%
91時間～100時間	1	1.8%
101時間～	0	0.0%
総計	56	100.0%

(N=56)

(4)チームの法人の構成等について

① 担当チーム内の法人の構成は適切でしたか。当てはまるものを選択してください。

適切でなかった	あまり適切でなかった	どちらともいえない	おおむね適切だった	適切だった
2	1	14	74	51
1.4%	0.7%	9.9%	52.1%	35.9%

② チームごとの担当法人の数は適切でしたか。当てはまるものを選択してください。

非常に多かった	若干多かった	適切だった	若干少なかった	非常に少なかった
1	12	123	6	0
0.7%	8.5%	86.6%	4.2%	0.0%

(5)評価者研修について

新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、評価担当者研修については動画を視聴する方式としましたが、いかがでしたか。
以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらともいえない	おおむね当てはまる	当てはまる
a. 動画内の説明により評価方法を理解できた。	0	11	17	79	35
	0.0%	7.7%	12.0%	55.6%	24.6%
b. 動画配信サービス(MOOGA)による動画視聴に支障はなかった。	1	0	9	42	89
	0.7%	0.0%	6.4%	29.8%	63.1%
c. 動画視聴後の問合せに対する事務局の対応は十分であった。	1	0	23	42	73
	0.7%	0.0%	16.5%	30.2%	52.5%

(N=141)

(N=139)

VI その他

その他、全体的にお気づきの課題点や良かった点があればご記入ください。

※自由記述

学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート 評価者向け

(指定があるものを除きN=197)

I 法人から提出された現況調査表について

(1) 主担当・副担当をされた現況調査表(別添資料を含む)について、以下に該当するものはどの程度ありましたか。当てはまる割合を選択ください。

	2割未満	2～4割	4～6割	6～8割	8割以上
a. 学部・研究科等の目的が明確に記されていた。	0	3	8	31	155
	0.0%	1.5%	4.1%	15.7%	78.7%
b. 基本的な記載事項、特記事項のエビデンス一式が記されていた。	0	6	33	63	95
	0.0%	3.0%	16.8%	32.0%	48.2%
c. 教育・研究活動の優れている点が具体的に説明されていた。	0	3	35	86	73
	0.0%	1.5%	17.8%	43.7%	37.1%
d. 教育・研究の成果が具体的に説明されていた。	0	10	48	86	52
	0.0%	5.1%	24.5%	43.9%	26.5%

(N=196)

(2) 法人から提出された現況調査表のページ数(分量)は、評価を実施する上で適切でしたか。

	少ない	やや少ない	適切	やや多い	多い
	0	12	140	39	5
	0.0%	6.1%	71.4%	19.9%	2.6%

(N=196)

(3) 現況調査表の形式や記載されていた内容について良かった点、悪かった点があれば、以下にご記入ください。

※自由記述

II 評価方法について

【教育面を担当された評価者のみ回答】

(1)-a 主担当・副担当をされた学部・研究科等について、書面調査段階における評価を確信をもって行うことができましたか。それぞれ以下の5段階から選択ください。

	2割未満	2～4割	4～6割	6～8割	8割以上
[I 教育活動の状況]	1	3	22	73	35
	0.7%	2.2%	16.4%	54.5%	26.1%
[II 教育成果の状況]	2	4	39	63	24
	1.5%	3.0%	29.5%	47.7%	18.2%

(N=134)

(N=132)

【研究面を担当された評価者のみ回答】

(1)-b 主担当・副担当をされた学部・研究科等について、書面調査段階における評価を確信をもって行うことができましたか。それぞれ以下の5段階から選択ください。

	2割未満	2～4割	4～6割	6～8割	8割以上
[I 研究活動の状況]	0	2	12	35	9
	0.0%	3.4%	20.7%	60.3%	15.5%
[II 研究成果の状況]	0	4	12	29	13
	0.0%	6.9%	20.7%	50.0%	22.4%

(N=58)

(N=58)

【研究面を担当された評価者のみ回答】

(2) 「研究成果の状況」の分析項目については、学部・研究科等を代表する研究業績(専任教員数の原則20%を上限)の「研究業績水準判定結果一覧表」(SS, S, S未満の数・割合やSSとした判断根拠)及びその集計結果を評価者に提供し、それらを参考に評価するようお願いしましたが、適切でしたか。

適切ではなかった	あまり適切ではなかった	どちらともいえない	おおむね適切であった	適切であった
1	6	7	38	9
1.6%	9.8%	11.5%	62.3%	14.8%

(N=61)

(3) 現況分析部会において段階判定及び判断理由等の調整を行いました。

a. 部会審議によって調整した結果は、当初(書面調査段階)の評価結果とどの程度一致していましたか。当てはまる割合を選択ください。

2割未満	2～4割	4～6割	6～8割	8割以上
1	3	16	84	92
0.5%	1.5%	8.2%	42.9%	46.9%

(N=196)

b. 調整を経て決定された評価内容は、評価者として納得のいくものとなりましたか。

納得のいくものではなかった	あまり納得のいくものではなかった	どちらともいえない	おおむね納得のいくものとなった	納得のいくものとなった
1	5	11	103	76
0.5%	2.6%	5.6%	52.6%	38.8%

(N=196)

(4) 評価がやりやすかった点、やりにくかった点があれば、以下にご記入ください。

※自由記述

Ⅲ 評価作業と事前研修について

(1) 評価作業はマイクロソフト社のExcelによる「書面調査シート」で行っていただきました。その使い勝手はいかがでしたか。

悪かった	やや悪かった	どちらとも いえない	おおむね 良かった	良かった
7	17	28	100	45
3.6%	8.6%	14.2%	50.8%	22.8%

(2) ファイルの受け渡しを、書面調査システムを用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。

悪かった	やや悪かった	どちらとも いえない	おおむね 良かった	良かった
2	4	11	92	88
1.0%	2.0%	5.6%	46.7%	44.7%

(3)-1 大学等の書面調査等にかかった、おおむねの作業時間をお答えください(おおむね〇〇時間、の〇〇の部分のみ半角英数でお答えください)

	数	割合
0時間～10時間未満	35	18.0%
10時間～20時間未満	41	21.1%
20時間～30時間未満	43	22.2%
30時間～40時間未満	35	18.0%
40時間～50時間未満	18	9.3%
50時間～60時間未満	7	3.6%
60時間～70時間未満	4	2.1%
70時間～80時間未満	2	1.0%
80時間～90時間未満	4	2.1%
90時間～100時間未満	1	0.5%
100時間～110時間未満	3	1.5%
110時間～120時間未満	0	0.0%
120時間～130時間未満	1	0.5%
総計	194	100.0%

(N=194)

(3)-2 評価を担当した現況調査表の数(担当の学部・研究科等の数)に関して、当てはまるものを以下の5段階から選択ください。

非常に多かった	やや多かった	どちらとも いえない	おおむね 適切だった	適切だった
2	25	20	100	50
1.0%	12.7%	10.2%	50.8%	25.4%

(4) 新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、動画を視聴することによる研修としましたが、評価方法を理解できましたか。以下の5段階から選択ください。

理解できなかった	あまり理解 できなかった	どちらとも いえない	おおむね 理解できた	理解できた
1	16	27	105	48
0.5%	8.1%	13.7%	53.3%	24.4%

Ⅳ その他(自由記述)

その他、現況分析作業全体を通じてお気づきがあればご記入ください。

※自由記述

学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート 評価者向け

(指定があるものを除きN=498)

1. 大学から提出された研究業績説明書について

(1)「学術的意義」を判断する研究業績について、判断するための根拠が十分に記述されていた業績はどの位ありましたか。

非常に少なかった (～2割未満)	少なかった (2～4割未満)	ある程度あった (4～6割未満)	多かった (6～8割未満)	非常に多かった (8割～)
7	26	171	232	62
1.4%	5.2%	34.3%	46.6%	12.4%

(2)「社会・経済・文化的意義」を判断する研究業績について、判断するための根拠が十分に記述されていた業績はどの位ありましたか。

非常に少なかった (～2割未満)	少なかった (2～4割未満)	ある程度あった (4～6割未満)	多かった (6～8割未満)	非常に多かった (8割～)
14	113	220	126	25
2.8%	22.7%	44.2%	25.3%	5.0%

2. 参考資料について

(1) 研究業績水準判定表に記載していた(URLからアクセスいただいたシステム上に表示された)各論文の被引用数等のデータを、判定の際に、どの程度参照になりましたか。

研究業績説明書 【被引用数データ付き】 は参照しなかった	参照したが、参考 にはしなかった	随時 参考にした	若干利用する ことがあった	重要な根拠 の一つとした	最も重要な 根拠とした
26	37	72	168	175	20
5.2%	7.4%	14.5%	33.7%	35.1%	4.0%

(2) ご担当の小区分において判定をした際に、大学からある程度共通して示されていると望ましかった根拠データがもしありましたら、お教えてください。(空欄でも結構です)

※自由記述

3. 判定について

(1)ご担当の小区分の専門領域の範囲を超える(担当小区分の専門知識では判断しづらい)研究業績がありましたか。

あった	なかった
88	410
17.7%	82.3%

(1)-2 「あった」場合、およその割合をお答えください。(0割～10割のうち〇〇割、の〇〇の部分を半角英数で入力ください)

	数	割合
0.5割以下	3	3.4%
1割	25	28.4%
2割	29	33.0%
3割	11	12.5%
4割	2	2.3%
5割	8	9.1%
6割	2	2.3%
8割	1	1.1%
10割	1	1.1%
無回答	6	6.8%
総計	88	100%

(N=88)

(2)学術的意義について、「SS」「S」「S未満」の間の判断は、しやすかったですか？
判定された業績の中で確信をもって判定を下すことができた割合を以下の5段階から選択ください。

2割未満	2～4割	4～6割	6～8割	8割以上
4	6	34	235	219
0.8%	1.2%	6.8%	47.2%	44.0%

(3)社会・経済・文化的意義について、「SS」「S」「S未満」の間の判断は、しやすかったですか？
判定された業績の中で確信をもって判定を下すことができた割合を以下の5段階から選択ください。

2割未満	2～4割	4～6割	6～8割	8割以上
9	31	101	211	146
1.8%	6.2%	20.3%	42.4%	29.3%

(4) 今回の研究業績水準判定では、一つの「研究業績」に三編までの論文等を記載する方式をとり、「研究業績」を単位として判定をしていただきました。この方法で判定がしづらいことがありましたか。

1:あった	2:なかった
117	381
23.5%	76.5%

(4)-2 前の質問で「あった」と回答された場合、具体的にどのような点が判定しづらかったでしょうか。
※自由記述

4. 作業について

(1) 判定にかかった、大体の作業時間をお答えください。(おおむね〇〇時間、の〇〇の部分のみ半角英数字でお答えください)

	数	割合
3時間未満	31	6.2%
3～5時間	117	23.5%
6～10時間	215	43.2%
11～15時間	43	8.6%
16～20時間	48	9.6%
21～30時間	23	4.6%
31～40時間	10	2.0%
41～50時間	5	1.0%
51時間以上	6	1.2%
総計	498	100%

(2) 判定した業績数の分量に関して、当てはまるものを以下5段階から選択ください。

多かった	やや多かった	どちらでもない	おおむね適切だった	適切だった
3	28	36	233	198
0.6%	5.6%	7.2%	46.8%	39.8%

(3) ファイルの受け渡しを、研究業績水準判定支援システムを用いて行いました。使い勝手はいかがでしたか。

悪かった	やや悪かった	どちらでもない	おおむね良かった	良かった
5	14	27	221	231
1.0%	2.8%	5.4%	44.4%	46.4%

(4) マイクロソフト社のExcelのファイルを用いて研究業績水準判定表の作成を行いました。その使い勝手はいかがでしたか。以下の5段階から選択ください。

悪かった	やや悪かった	どちらでもない	おおむね良かった	良かった
26	50	58	241	123
5.2%	10.0%	11.6%	48.4%	24.7%

(5) 新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、動画を視聴することによる研修としましたが、評価方法を理解できましたか。以下の5段階から選択ください。

できなかった	あまりできなかった	どちらともいえない	おおむねできた	できた
2	6	29	214	247
0.4%	1.2%	5.8%	43.0%	49.6%

判定作業へのご意見や、判定作業で難しかったこと、参考資料のあり方、そのほかコメントがございましたら、ご自由にお書きください(空欄でも結構です)
※自由記述

本検証における統計手法・用語について

本検証結果報告書において利用した統計手法、用語については、以下の書籍によって全体的な理解を得ることができる。また、個別の分析における分析手法、用語等に関して定義、解説が与えられている箇所を、簡単な用語解説を含めて表の形で示した。

東京大学教養学部統計学教室 編

- ・『統計学入門』基礎統計学Ⅰ，東京大学出版会，1991.
- ・『人文・社会科学の統計学』基礎統計学Ⅱ，東京大学出版会，1994.
- ・『自然科学の統計学』基礎統計学Ⅲ，東京大学出版会，1992.

※ 以下においては、『統計学入門』を『入門』、『人文・社会科学の統計学』を『人文・社会』、『自然科学の統計学』は『自然科学』と省略する。

第Ⅱ章

項	用語	参考文献・解説
2.1, 3	χ^2 検定	『入門』第 12 章
2.1, 3	t 検定	『入門』第 12 章

第Ⅲ章

1. 中期目標の達成状況評価に関する分析

項	用語	参考文献・解説
1.1	水準	『人文・社会科学』第 13 章
1.1	二元配置分散分析（対応あり）	『自然科学』第 3 章「繰り返しのない 2 元配置」
1.1	主効果	『自然科学』第 3 章, 第 5 章
1.1	有意	『入門』第 12 章
1.1	F	『入門』記号表
1.1	p	『入門』記号表
1.1	η_p^2	分散分析で用いられる効果量の一種
1.1	交互作用	『自然科学』第 3 章
1.1	単純主効果の検定	交互作用が見られた場合に水準ごとに個別に差を調べる方法
1.1	Bonferroni 法による多重比較	複数の群が分散分析で見られたときに、どの水準間で差が見られたかを明らかにする手法の一種
1.2	度数	『入門』第 2 章

2. 学部・研究科等の現況分析に関する分析

項	用語	参考文献・解説
2.1	二元配置分散分析（混合計画）	2つの要因（一方に対応があり、もう一方に対応がない）がある場合の分散分析
2.1, 2.2	被験者内要因	同じ対象に対して繰り返し測定がなされている要因
2.1	被験者間要因	水準ごとに異なった対象に対して測定されている要因
2.1, 2.2	水準	『人文・社会科学』第13章
2.1, 2.2	有意	『入門』第12章
2.1, 2.2	Bonferroni 法による多重比較	複数の群が分散分析で見られたときに、どの水準間で差が見られたかを明らかにする手法の一種
2.1	標準誤差	『入門』第13章
2.1, 2.2	主効果	『自然科学』第3章, 第5章
2.1, 2.2	F	『入門』記号表
2.1, 2.2	p	『入門』記号表
2.1, 2.2	η_p^2	分散分析で用いられる効果量の一種
2.1, 2.2	交互作用	『自然科学』第3章
2.1	効果量	『人文・社会科学』第13章
2.2	二元配置分散分析（対応あり）	『自然科学』第3章「繰り返しのない2元配置」
2.2	対応のあるデータ	同じ対象に対して複数の条件下で測定を行ったデータのこと
2.2	球面性の仮定	被験者内要因の分散分析を適用する際に前提とされる分散の等質性に関する仮定
2.2	Greenhouse-Geisser の方法による自由度の補正	球面性の仮定が保持されない場合に、自由度を調整するための手法の一種
2.2	自由度	『入門』第9章 自由に動ける変数の数
2.2	単純主効果の検定	交互作用が見られた場合に水準ごとに個別に差を調べる方法

3. 研究業績水準判定に関する分析

項	用語	参考文献・解説
3.1	信頼性	『人文・社会科学』第12章
3.1	順序尺度	『入門』第2章
3.2	階級	『入門』第2章
3.2	標準偏差	『入門』第1章, 第5章

4. データ分析集と評価結果の関係

項	用語	参考文献・解説
4.1, 4.2	相関係数	『入門』第1章, 第3章
4.1	比尺度	『入門』第2章
4.1	順序尺度	『入門』第2章
4.2	有意	『入門』第12章

また、さらに詳しい解説は総務省統計局が公開している用語集や日本産業規格を参照されたい。

●総務省統計局 (<https://www.stat.go.jp/index.html>)

統計学習の指導に携わる教員に向けた「統計学習の指導のために」の補助教材(基本用語集)
児童・生徒向け学習コンテンツ「なるほど統計学園」内の参考資料(統計用語辞典)

●日本産業規格

JIS Z 8101-1 (統計－用語及び記号－第1部：一般統計用語及び確率で用いられる用語)

JIS Z 8101-2 (統計－用語及び記号－第2部：統計の応用)

JIS Z 8101-3 (統計－用語と記号－第3部：実験計画法)